MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

定価590円(税込)
2011/10/18

2

今週のMS❶
RX-78-2 GUNDAM

今週のMS❷
GAT-X105 STRIKE GUNDAM

MECHANIC FILE

ガンダム／ストライクガンダム／ホワイトベース／ゼク・アイン／FAZZ／アルケーガンダム

PERSONAL PROFILE

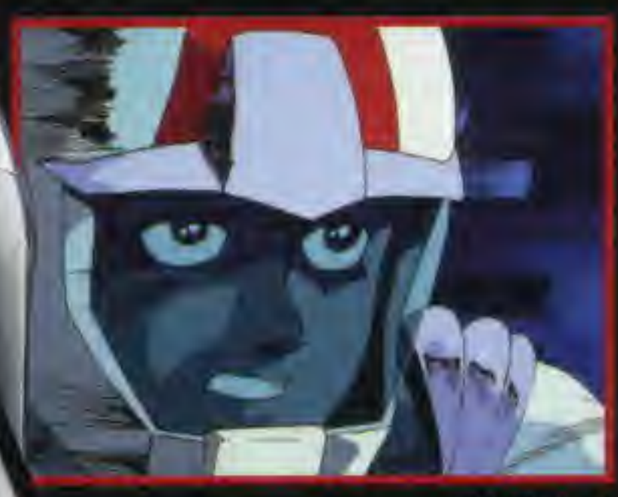
アムロ・レイ／ブライト・ノア／キラ・ヤマト／ラクス・クライン

WORLD GUIDE

地球連邦／モビルスーツ誕生

C.E.TIMELINE

「血のバレンタイン」事件とヘリオポリス襲撃



アムロ・レイ

モビルスーツ誕生

DeAGOSTINI
インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

CONTENTS

第2号　目次

MECHANIC FILE　メカニックファイル

ガンダム	FG	FILE:01 / SHEET:03A	2-1
ストライクガンダム	SEED	FILE:01 / SHEET:01A	2-5
ホワイトベース	FG	FILE:01 / SHEET:27A	2-9
ゼク・アイン	AGS	FILE:01 / SHEET:64A	2-11
FAZZ	AGS	FILE:01 / SHEET:61A	2-13
アルケーガンダム	00	FILE:01 / SHEET:23A	2-15

PERSONAL PROFILE　パーソナルプロファイル

アムロ・レイ	FG	FILE:02 / SHEET:01C	2-17
ブライト・ノア	FG	FILE:02 / SHEET:08A	2-19
キラ・ヤマト	SEED	FILE:02 / SHEET:01A	2-21
ラクス・クライン	SEED	FILE:02 / SHEET:20A	2-23

WORLD GUIDE　ワールドガイド

地球連邦	00	FILE:03 / SHEET:40A	2-25
モビルスーツ誕生	FG	FILE:03 / SHEET:14A	2-27

C.E.TIMELINE　コズミック・イラ年表

「血のバレンタイン」事件とヘリオポリス襲撃	SEED	FILE:04 / SHEET:01	2-31

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダーを特別プレゼント

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイリングしていくユニークな雑誌です。最初のバインダーは、創刊号をお買い上げの方にもれなくプレゼントしております。詳しくは書店でお問い合わせください。

［発行日］2011年10月18日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-6205　東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ
［発行人］小河原和世
［編集人］クロス中山慶子
［チーフエディター］安部 翠
［アートディレクター］今福健司
Printed in Japan

©2011 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

［編集協力］MEGALOMANIA（富田英樹／渡邊洋三／高村泰稔／本田あきら／鈴木秀治／公森直樹／桑木貴章）
［執　筆］坂口徳仁／杉山和繁
［デザイン］ケークルーデザインワークス（中村亮平／萩口洋文／出嶋 勉／生馬沙知子／富岡哲也／及川深紗子）
［表紙イラスト］寺岡 巌／重田 智
［監　修］株式会社サンライズ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・毎日放送

●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的なご質問を承ります）
TEL：0570-008-109（月～金 10:00～18:00 土日祝を除く）

定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者受注センターに電話またはファクスで
TEL：0120-300-851（フリーダイヤル 9:00～21:00 年中無休）
FAX：0120-834-353（フリーファックス 24時間受付）
2. インターネットで
http://deagostini.jp/gpf/（24時間受付）
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送で
「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記読者受注センターまでお問い合わせください。

【個人情報のお取り扱いについて】1. 個人情報の利用目的　商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内と利用目的とします。2. 第三者への個人情報の提供・開示等　法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等をすることはありません。3. 個人情報の委託と管理　弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。4. 個人情報提供の任意性　個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きができない場合もあります。（購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター：0120-300-851へ）5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口　デアゴスティーニ・ジャパン　個人情報保護相談受付窓口　電話番号　03-5333-7722　受付時間　10:00～18:00（土日祝日、弊社休業日を除く）※弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。http://deagostini.jp/security/

本誌の最新情報をCheck!
PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/gpf/

このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に取り扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ
- FG 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGLOO2 重力戦線
- GC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争
- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 －0087－ GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ
- GG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V ∀ガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE

■その他の作品
- AGS 非映像化作品
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

RX-78-2

GUNDAM

ガンダム

Illustration by IWAO TERAOKA / Color by NAGISA ABE / Special effect by YUMI NOMURA / Back Ground by ATELIER MUSA
Special thanks to BANDAI Hobby Products Department

伝説になった「連邦の〝白い奴〟」

RX-78-2

ガンダム
GUNDAM

E.F.S.F.

頭部
人間のそれを強く意識した頭部。スーズ社製の無段階包囲アンテナ、教育型コンピュータやセンサー系を支援するコ・プロセッサーフレームなどを搭載。

装甲
コスト面からジオン公国系MSでは不採用だったルナ・チタニウム製の装甲を備える。軽量なうえ防御力が極めて高く、120mmザク・マシンガンのゼロ距離射撃にも耐える。

ランドセル
LE-703ロケットを2基、サブ・ジェネレーターのNC-5型を2基内装する。格闘兵装のビーム・サーベルを2基マウントするほか、ガンダム・シールドを懸架可能。

脚部
RX-LU-D1の型式番号を持つ脚部。最大作業重量は306tで、ガンダムに時速130kmの歩行速度を与えているとされる。NC-3M型サブ・ジェネレーターを搭載。

■ SPEC

全高	——（頭頂高 18.0m）
重量	43.4t（全備重量 60.0t）
ジェネレーター出力	1,380kW
スラスター推力	55,500kg
装甲材質	ルナ・チタニウム合金
武装	ビーム・ライフル　ビーム・サーベル×2／ハイパー・バズーカ／ガンダム・シールド 他
所属	地球連邦軍
搭乗者	アムロ・レイ

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

アムロ・レイの乗機となった第2仕様ガンダム

地球連邦軍のMS開発計画「RX計画」で試作され、「V作戦」で運用法が模索された白兵戦用MSが、RX-78-2 ガンダムである。考えられる限りの最新技術を採り入れ、実戦テストも可能な万能MSとして完成した。一般に「ガンダム」と認知され、「一年戦争最高のニュータイプ」アムロ・レイの乗機となったのがこの仕様である。

型式番号末尾の「2」の数字が示す通り、RX-78としては2番目の仕様で、第1仕様のRX-78-1 プロトタイプ・ガンダムでの問題点が改善されている。ファーストロットの3機のRX-78のうち、3号機が最初からRX-78-2として建造された機体で、RX-78-1としてロールアウトした1号機と2号機は後にRX-78-2仕様に改修された。なお、アムロ・レイの乗機は2号機とするのが通説である。

プロトタイプ・ガンダムからの主な改修点としては、装甲の充実、BLASH（ブラッシュ）社製の分離型ビーム・ライフルXBR-M-79-07Gの搭載が挙げられる。これらの改修と設計段階から採用された数々の新技術により、圧倒的戦闘能力と万能性を獲得したガンダムは、サイド7遭遇戦を契機に実戦に投入。アムロ・レイをパイロットとし、一年戦争史に残る戦果を挙げたのである。

関連ファイル

ホワイトベース	FG-01-27
アムロ・レイ	FG-02-01
サイド7遭遇戦	FG-03-05
RX計画とV作戦	FG-03-15
ガンダム・タイプMSの開発拡大	08-03-05

FILE PREVIEW

08-03-05　ガンダム・タイプMSの開発拡大

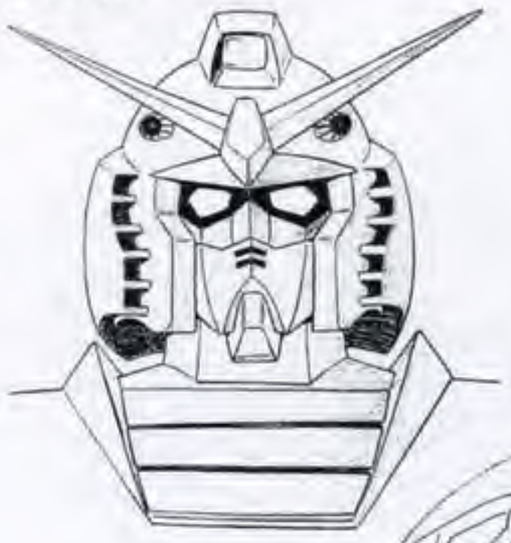
V作戦におけるガンダムの開発によって、地球連邦軍のMS開発は加速度的に進むことになる。そして、陸戦型ガンダムなどのガンダム・タイプMSが生み出された。

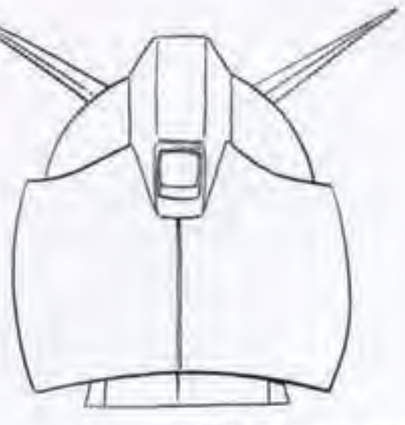
機体構造　白兵戦を意識したスタイルと分散配置ジェネレーター

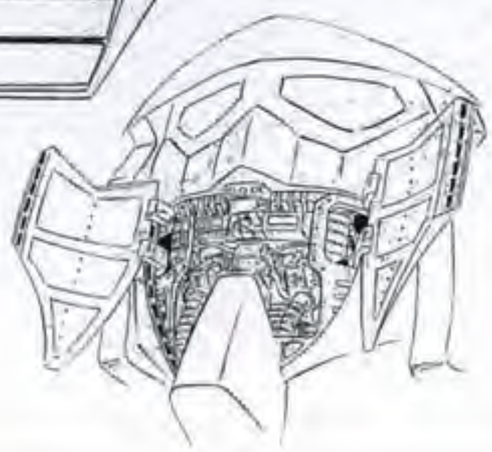
ジオン公国軍の汎用MSと同様に、ガンダムは近距離での白兵戦を重視したMSである。このためボディは運動性や駆動性を重視した構造となり、重量の増大を招き動作を阻害する大型火器は固定装備されていない。駆動装置はジオン公国軍系MSの流体内パルス・システムではなく、サムソニ・シム社と軍技術部が共同開発したフィールド・モーターを採用。パワーソースであるタキム社製ミノフスキー・イヨネスコ型核反応炉／ジェネレーターは機体各部に計7基が分散配置されており、当時としては破格の1,380kWもの出力を発揮した。7基の内訳は、中央モジュールのコア・ブロックに搭載されたNC-3型が2基、ランドセル搭載のNC-5型が2基、腰部のNC-7型が1基、脚部のNC-3M型が両脚合わせて2基であった。

他のRXシリーズ同様、コア・ブロック・システムを採用。核反応炉のNC-3型は脱出戦闘機コア・ファイターの主機で、ガンダム用主推進器の燃焼にも用いられた。

■ 頭部







センサー系やコ・プロセッサーが集中した頭部。人間の目に位置するデュアル・カメラは主に射撃用であり、メイン・カメラは頭頂部に存在する。センサー系は光統合回路でリンクしており、ミノフスキー粒子散布下でも作動可能だった。

中距離支援用のRX-77 ガンキャノンと比べてシルエットは細身で、大型固定火器も見られない（ビーム・ライフルは右手で持っている）。特殊な用途に偏っていない証拠でもある。胸部のダクトはランドセルのジェネレーターに繋がっている。

武　装　驚異的な威力を誇ったビーム兵器

ガンダムの兵装はマニピュレーターで使用する「手持ち式」にほぼ統一された。これは、ガンダムが「巨大歩兵」というMSの本質に沿っていたことを意味している。武装形態は対艦／対MS用の射撃兵装、対MS格闘戦を想定した格闘兵装に大別でき、それ自体は珍しくない。ただしMAWS（Minovsky-theory Applied Weapon System＝ミノフスキー理論応用兵器体系）に属するビーム・ライフルとビーム・サーベルは、当時のMS用兵装としては突出した威力を持っており、ジオン公国軍の宇宙艦艇やMSを難なく撃破したのだった。

唯一の内装火器として知られるトト・カニンガム社の60mmバルカン砲ASG56-B3。頭部に2門を搭載する。近接防御用であるが、近距離ならMS-06 ザクⅡを撃墜可能な威力を持っていた。

特殊な武装としては、長大な鎖の先にスパイク付き鉄球を接続したガンダム・ハンマーがある。一撃でザクⅡを撃破可能だった。強化型のハイパー・ハンマーは、鉄球に加速用のブースターを備える。

■ ビーム・ライフル

BLASH社のXBR-M-79-07G。エネルギーCAPの実用化で完成した最初期のビーム・ライフルである。出力は1.9MW、1チャージあたり16発を発射可能だった（12発、15発とも言われる）。「戦艦並みのビーム砲」と呼ばれるほど強力で、ビーム・ライフルの実用化に遅れていたジオン公国軍を恐怖させた。

■ ビーム・サーベル

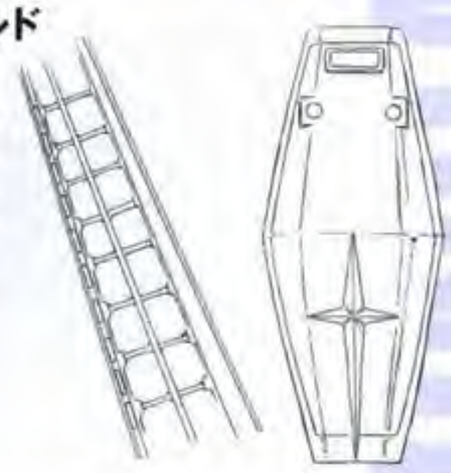
ビーム・ライフルと同じくエネルギーCAPを用いた格闘兵装。ビーム刃は縮退寸前のミノフスキー粒子であり、Iフィールドによって刀身状に形成される。出力は0.38MWで、厚さ30cmのチタニウム鋼を1秒以内に切断可能とされる。調整によりビーム・ジャベリンとしても使用可能だった。

■ ハイパー・バズーカ

BLASH社のXHB-L-03/N-STD。口径380mm（320mmとも言われる）の無反動砲／ロケット・ランチャーで装弾数は4発。大型だが反動が小さく使いやすいほか、ビーム・ライフルより確実なダメージを与えられた。ビームが拡散／減衰しやすい大気圏内で特に有効だった。RGM-79 ジムも使用した。

■ ガンダム・シールド

使い捨て装甲として開発されたRX・M-Sh-008/S-01025。近接戦で格闘兵装を防ぐだけでなく、大口径砲の直撃からガンダムを守ることもできる。左手に装備するため、防御方向を変更できる点も優れている。



MORE INFO!

以降に開発された「ガンダム」

RX-78がロールアウトした後にも、ガンダム・タイプMSの開発は続けられた。一年戦争中はRX-78-2（3）に特殊装備や新技術を追加した改修機が多かったが、戦後にはコンセプトを受け継ぎながらも設計を一新したタイプや、ガンダムのネームバリューを利用した機体も見られた。こうして「ガンダム」の開発は続けられ、U.C.0150年代にもその姿が確認されている。

アムロ・レイとガンダムの活躍が新たなガンダムの開発を促し、新型ガンダムが驚異的戦果を残す——というサイクルによって、ガンダムの名は最強の称号となった。

■ NT専用機としての発展

アムロ・レイやカミーユ・ビダンらの活躍によって、ガンダムとニュータイプは切り離せない関係となった。このため、強力なガンダム・タイプに、さらにサイコミュなどのニュータイプ対応機器を搭載した機体も出現した。

RX-78NT-1 アレックス

一年戦争中、アムロ・レイ専用機として開発されたMS。ニュータイプの反応速度に対応するため、極めてピーキーな機体となった。

■ コンセプトの継承

万能性の追求やコア・ブロック・システムの採用といったRX-78のコンセプトを、最新技術で再構築したMS。RX-78単体ではなく、Gファイターなどの関連装備を含めたシステム全体を、1機のMSに集約したガンダム・タイプも存在する。

RX-78GP01 ガンダム試作1号機

一年戦争後の「ガンダム開発計画」で試作されたコンセプト継承機。コア・ブロック・システムを採用し、装備の換装で万能性を獲得。

■ シンボルとしての利用

一年戦争と以降の戦乱における絶大な戦果とメディアへの露出は、ガンダムのネームバリューを飛躍的に高めた。これに着目して独自のガンダム・タイプMSを開発し、組織のシンボルとして、または敵対勢力への牽制に利用した組織もあった。

RX-178 ガンダムMk-Ⅱ

ティターンズが、アースノイドの技術者だけで開発したRX-78の後継機。軍事的意義よりも政治的役割が大きいMSだと言える。

©創通・サンライズ

GAT-X105

STRIKE GUNDAM

ストライクガンダム

[GAT-X105+AQM/E-X01 ／ エールストライクガンダム]

GAT-X105

機動戦士ガンダムSEED

MECHANIC FILE

モビルスーツ：GAT-X105 ストライクガンダム

SEED FILE 01 SHEET 01A

Illustration by SATOSHI SHIGETA Color by HARUSA ASE Special thanks to HIROFUMI KAGI (ASAHI PRODUCTION)

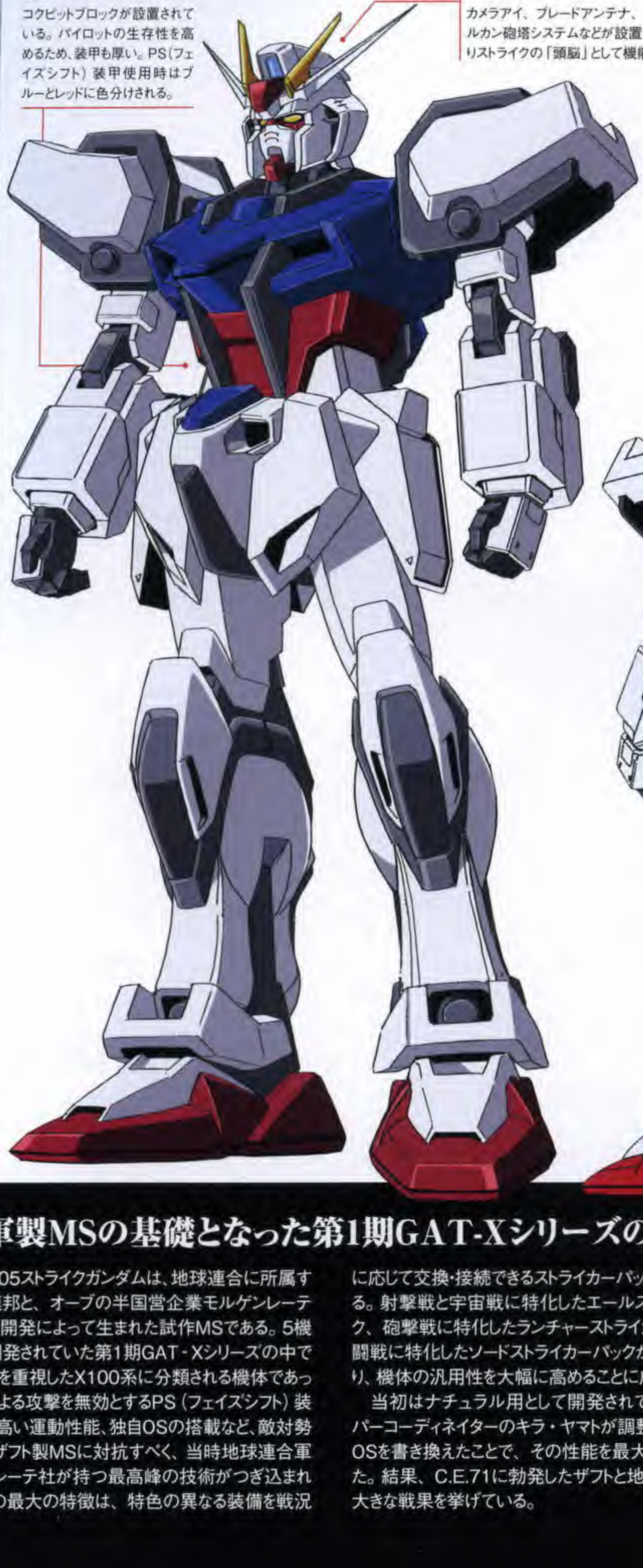
地球軍が開発した高汎用性MS

GAT-X105 ストライクガンダム
STRIKE GUNDAM

O.M.N.I

胸部
コクピットブロックが設置されている。パイロットの生存性を高めるため、装甲も厚い。PS（フェイズシフト）装甲使用時はブルーとレッドに色分けされる。

頭部
カメラアイ、ブレードアンテナ、75mm対空自動バルカン砲塔システムなどが設置されており、文字通りストライクの「頭脳」として機能する。



背部
背部にはストライカーパックとのジョイント部が設けられており、その影響でスラスターの射出口は中央ではなく、下方に設置されている。

装甲
PS装甲が採用されており、使用時にはトリコロールカラーへと機体色が変化する。非使用時にはグレー1色となる。

■ SPEC

全高	17.72m
重量	64.80t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	PS装甲
武装	75mm対空自動バルカン砲塔システム「イーゲルシュテルン」×2／コンバットナイフ「アーマーシュナイダー」×2／57mm高エネルギービームライフル／対ビームシールド／バズーカ
所属	地球連合軍（大西洋連邦）
搭乗者	キラ・ヤマト／ムウ・ラ・フラガ

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

地球軍製MSの基礎となった第1期GAT-Xシリーズの1機

GAT-X105ストライクガンダムは、地球連合に所属する大西洋連邦と、オーブの半国営企業モルゲンレーテ社との共同開発によって生まれた試作MSである。5機が同時に開発されていた第1期GAT-Xシリーズの中でも、汎用性を重視したX100系に分類される機体であった。実弾による攻撃を無効とするPS（フェイズシフト）装甲の採用、高い運動性能、独自OSの搭載など、敵対勢力であったザフト製MSに対抗すべく、当時地球連合軍とモルゲンレーテ社が持つ最高峰の技術がつぎ込まれている。その最大の特徴は、特色の異なる装備を戦況に応じて交換・接続できるストライカーパックシステムである。射撃戦と宇宙戦に特化したエールストライカーパック、砲撃戦に特化したランチャーストライカーパック、格闘戦に特化したソードストライカーパックが用意されており、機体の汎用性を大幅に高めることに成功している。

当初はナチュラル用として開発されていたが、スーパーコーディネイターのキラ・ヤマトが調整段階であったOSを書き換えたことで、その性能を最大限に発揮できた。結果、C.E.71に勃発したザフトと地球軍の戦いで大きな戦果を挙げている。

■ 関連ファイル

GAT-X102 デュエルガンダム	SEED-01-03
GAT-01 ストライクダガー	SEED-01-20
MBF-M1 M1アストレイ	SEED-01-21
キラ・ヤマト	SEED-02-01

FILE PREVIEW

SEED-02-01 キラ・ヤマト

ストライクガンダムのパイロット。コーディネイターとしての高い能力を駆使し、機体を縦横無尽にコントロールした。

基本構造　X100系フレームの採用によって得た安定性

ストライクの基本フレームに用いられたX100系は、シンプルで安定性・信頼性に長けた構造となっている。人型であることの利点を最大限に活かすため、脚部・腕部には高い運動性が与えられているほか、マニピュレーターも、銃器の扱いを容易に行える精巧なものとなっていた。こうした基礎構造の優れた安定性は、ストライカーパックの接続時にも保たれる。事実、ストライクは宇宙戦／砂漠戦／水中戦などでも充分にその性能を発揮できた。

ストライクの俊敏な運動性は、ザフトの主力機であったジンをも凌ぐ。だが、それをコントロールするだけのOSとパイロットの準備は進んでいなかった。

■ 頭部

戦況の把握に不可欠なカメラアイ、センサー、アンテナ類を設置する。また、側頭部に牽制用兵器である75mm対空自動バルカン砲塔システムを装備している。

■ ボディ

胸部フロントには排熱口を、背部にはスラスター射出口とストライカーパックのジョイント部を備える。肩部と腰部にはアーマーが設置されている。

■ コクピットハッチ

パイロットが乗降するコクピットハッチのオープン時。二重扉でコクピットが保護されており、パイロットの安全性が保たれている。

■ 足裏

ストライクの脚部は、踵とつま先が別パーツになっている。接地性と走破性に優れ、砂漠などの悪路でも一定の行動が可能であった。

標準装備　ストライク本体に用意された装備群

ストライクはストライカーパックとの接続運用を前提としているが、機体自体にもシンプルな兵器群が用意されていた。これらはどのような戦況にも対応しやすいもので、中距離戦闘用のビームライフル、長距離狙撃用のバズーカ、近接戦闘用のコンバットナイフなどがある。また、防御兵器として、PS装甲が施されたシールドを装備。ビームによる攻撃にも耐久性を持っている。

ストライクの初出撃時は、コンバットナイフとバルカン砲のみでジンと交戦。PS装甲の高い耐弾性もあり、互角の戦いを繰り広げた。

■ 57mm高エネルギービームライフル

ジンであれば一度の射撃で撃破するだけの威力を有している。

■ バズーカ

長射程の実弾式バズーカ。連射はできないが威力は高く、特に対艦戦で効果を発揮した。

■ 対ビームシールド

対ビームコーティングが施されたシールド。左腕で支持する。ビーム攻撃にも耐えることができた。

■ コンバットナイフ

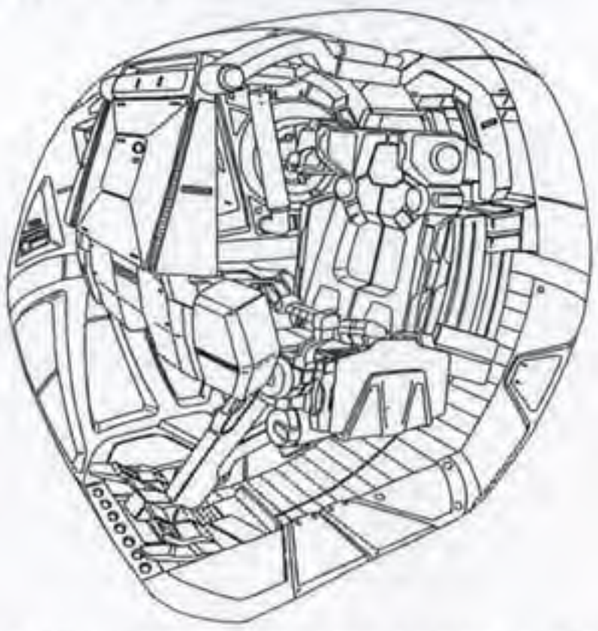
「アーマーシュナイダー」と呼ばれるコンバットナイフ。非使用時は腰部アーマー内に格納されている。

コクピット　ナチュラル用に開発された操作体系

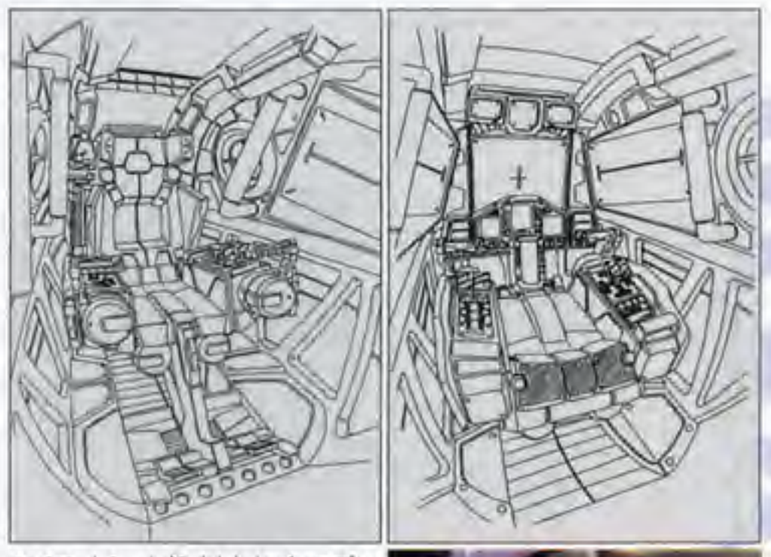
ストライク内に組み込まれているコクピットは、第1期GAT-Xシリーズ用に開発されたものである。形状はタマゴ形で、パイロットシートをリクライニング部で固定している。ザフト製MSには見られない特徴としては、付属のキーボードを使用すれば、操縦者が随時オペレーション・システムの書き換えが可能となる点が挙げられる。このシステムを用いれば、ストライカーパックや戦況に合わせて機体を微調整・最適化させることができた。反面、パイロットに求められる技量も高くなっていると言えよう。

仲間を救うためにストライクへ乗り込んだキラは、圧倒的なスピードでOSを書き換え、その最適化を実現。ジンと渡り合えるだけの性能を発揮させることができた。

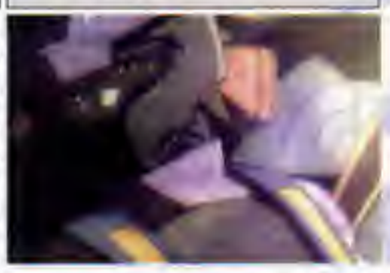
■ コクピット内部／パイロットシート



タマゴ形の「殻」に覆われたコクピット。パイロットにかかる「G」や衝撃を軽減させる造りとなっている。操作時はシート前面にディスプレイが設置され、頭部のカメラアイから映像が送られるシステムであった。



パイロットシート部（上）とディスプレイ部（右）。コンソールは、フットペダルとレバーで構成されている。成人1名が着席できる程度のスペースに、多数の機器類が設置されている。キラがOSを最適化したことで、のちにナチュラルであるムウ・ラ・フラガでも操縦が可能となった。



©創通・サンライズ

WHITE BASE

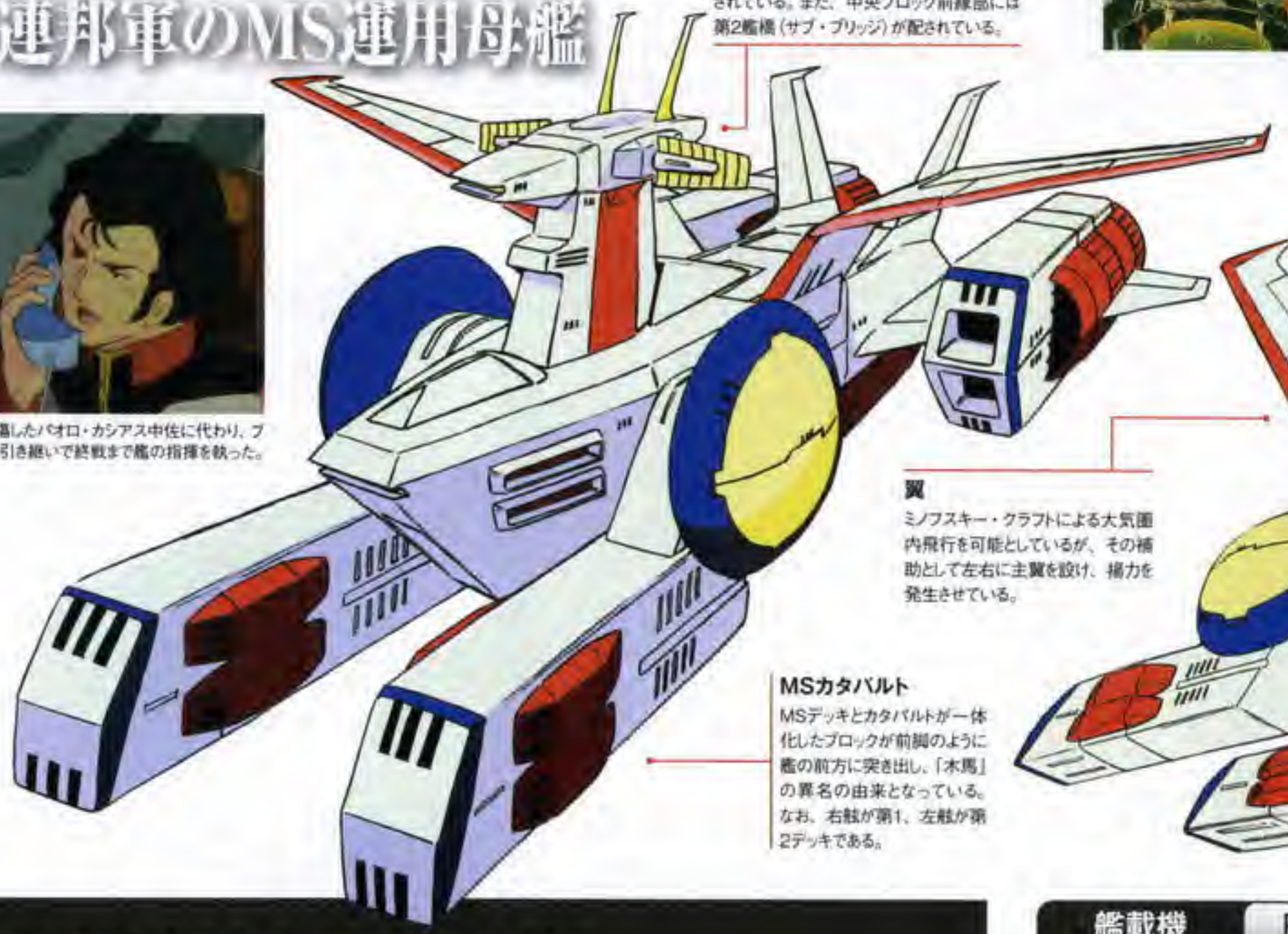
ホワイトベース

ペガサス（ホワイトベース）級強襲揚陸艦

E.F.S.F.

戦術の変革に対応した地球連邦軍のMS運用母艦

サイド7遭遇戦で負傷したパオロ・カシアス中佐に代わり、ブライト・ノアが艦長を引き継いで終戦まで艦の指揮を執った。



艦橋

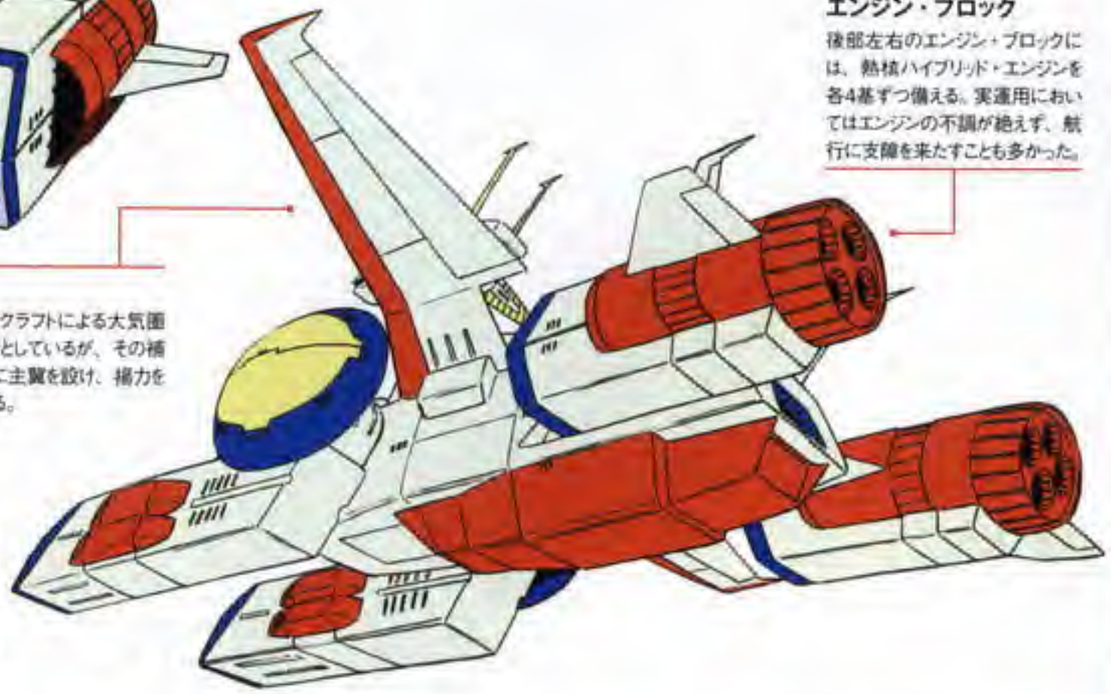
第1艦橋（ブリッジ）は艦中央の高所に設けられ、有視界戦闘時における視認性が確保されている。また、中央ブロック前縁部には第2艦橋（サブ・ブリッジ）が配されている。

翼

ミノフスキー・クラフトによる大気圏内飛行を可能としているが、その補助として左右に主翼を設け、揚力を発生させている。

MSカタパルト

MSデッキとカタパルトが一体化したブロックが前脚のように艦の前方に突き出し、「木馬」の異名の由来となっている。なお、右舷が第1、左舷が第2デッキである。



エンジン・ブロック

後部左右のエンジン・ブロックには、熱核ハイブリッド・エンジンを各4基ずつ備える。実運用においてはエンジンの不調が絶えず、航行に支障を来たすことも多かった。

関連ファイル

RX-78-2 ガンダム	FG-01-03
ブライト・ノア	FG-02-08
ア・バオア・クーの決戦	FG-03-12
艦船	FG-03-40
ホワイトベース隊	FG-03-52

FILE PREVIEW

FG-03-52 ホワイトベース隊

サイド7遭遇戦以降、ホワイトベースは士官候補生や民間人の手で運用されることになった。彼らは驚くべき戦果を残し、敵味方の注目を集めることとなった。

SPEC

全長	262m
武装	880mm2連装砲　2連装メガ粒子砲 ×2 他
所属	地球連邦軍
搭載MS	ガンダム、ガンキャノン、ガンタンク 他
艦長	パオロ・カシアス→ブライト・ノア

COMPARISON CHART

COLOR

一年戦争に伝説を残した「V作戦」の結実

一年戦争開戦時、地球連邦軍はジオン公国軍の新兵器「モビルスーツ（MS）」によって従来の大艦巨砲主義を根底から覆された。その状況で劣勢を挽回するために進められたプロジェクトが、地球連邦軍の兵器運用体系にMSを組み込むことを主幹とした「V作戦」であり、ペガサス級強襲揚陸艦は同計画の一環で開発されたMS運用母艦である。ホワイトベースはペガサス級の2番艦にあたり（艦籍番号はSCV-70、MS搭載強襲揚陸艦としてはLSMD-71とする説もある）、V作戦においてRXシリーズの搭載が予定されていた。しかし、U.C.0079.09.18にサイド7・1バンチで発生した遭遇戦を契機に、本艦は想定外の実戦運用が行われ、その結果、一年戦争で伝説的な戦果を残すこととなる。

ちなみに、AAA（トリプルエー）の最高軍事機密に属する本艦の開発経緯は、諸説あって定まらない。開戦前から進められていた「SCV-X計画」に沿う「SCV-27計画（SCV-27A計画とも）」によって建造された艦が、一年戦争緒戦の大敗を受けてMS運用艦に改装されたという説も存在する。それに関連して、本艦をホワイトベース級宇宙攻撃空母1番艦とする説もある。

艦載機　RXシリーズMSを中心とする艦載戦力

ホワイトベースはサイド7遭遇戦で破壊を免れたガンダム、ガンキャノン、ガンタンクを1機ずつ回収して艦載機とした。また、FF-X7Bst コア・ブースター（Gファイターとも）やガンペリーといった航空機の運用も行われている。

後に2機のコア・ブースターが補充され、支援戦闘機としてRXシリーズMSとの連携運用が行われた。

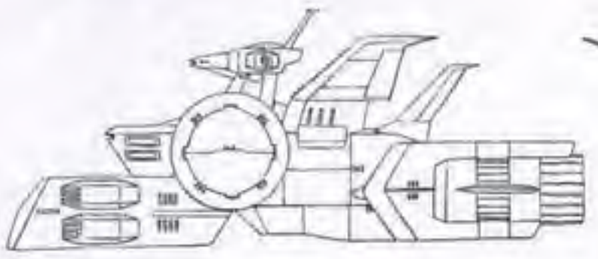
■ RX-78-2 ガンダム　■ RX-77-2 ガンキャノン　■ RX-75 ガンタンク

艦体構造　独創的な設計思想に基づく艦体のユニット化構造

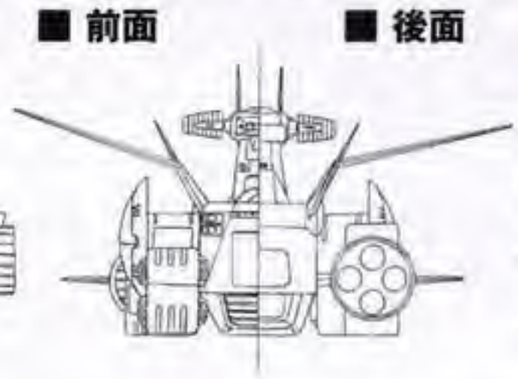
ホワイトベースの艦体構造に見られる最大の特徴は、艦体の各部を機能別にブロックで分割したユニット化構造である。本艦は艦体を大きく5つのユニットに分けることができ、各ユニットは胴体部（中央艦体）、左右デッキ、左右エンジンで構成されている。これらは切り離しが可能で、ア・バオア・クー戦においては被弾した左エンジン・ブロックを切り離して艦の誘爆を回避している。そうした設計に基づく独創的な艦の形状は、「木馬」というジオン公国軍側の通称の由来にもなっている。ミノフスキー・クラフトを推進システムに採用したことで、大気圏内飛行における空力特性を考慮する必要性が薄れた点も、従来の艦艇とは異なる設計を可能にした一因とも考えられる。

ユニットの分離は窮余の策で、ア・バオア・クー戦で左舷エンジンを切り離した際には制御を失い着底を余儀なくされた。

■ 側面



■ 前面

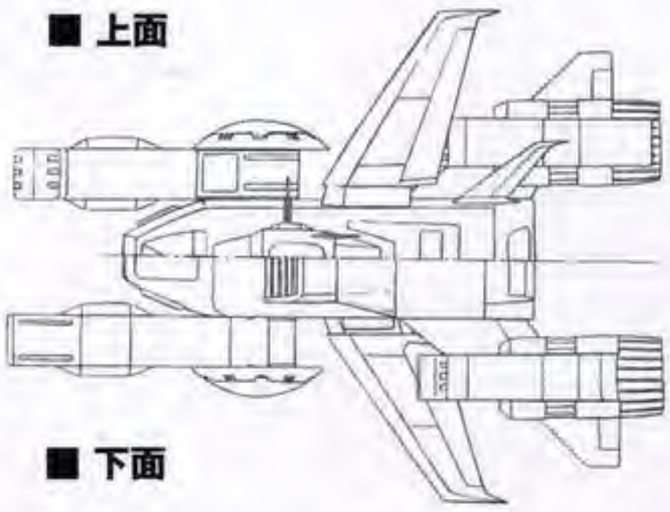


■ 後面

■ 五面図

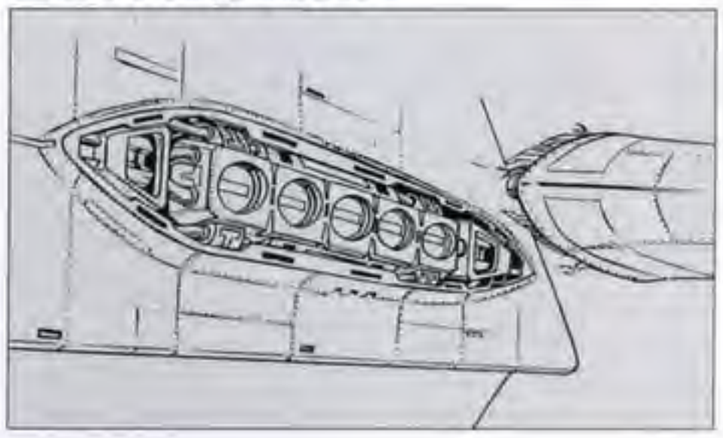
従来の地球連邦軍宇宙艦艇とは一線を画す形状は、多機能性を追求した結果だったとも言える。本艦を指す「木馬」という呼称は、ホワイトベース級の流れを汲む艦艇の通称にもなった。

■ 上面



■ 下面

■ エンジン切り離し部

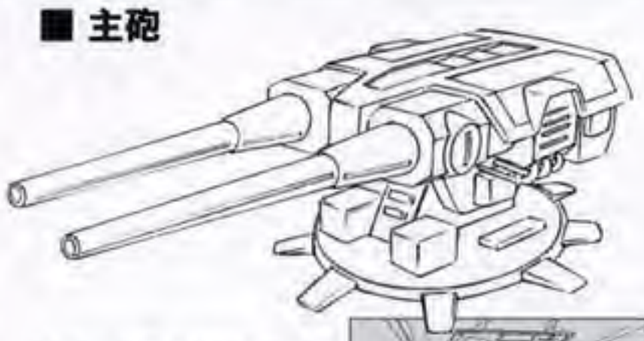


武　装　MSの運用を補佐する戦闘艦としての性能

ペガサス級はMSの運用を主眼として開発されたが、戦闘艦としての性能が軽視されているわけではない。ホワイトベースでは、880mm2連装砲を1基と2連装メガ粒子砲を2基、35基以上の対空機関銃座を装備している。また、ミサイル発射装置を前部に24基と後部に6基備えていた。これらの武装はすべて艦内に収納する機構が加えられている。総合的な火力は戦艦クラスの艦艇には及ばないものの、戦闘艦として充分な性能は有していた。ただし、地球連邦軍の最新鋭艦であってもMSと艦艇の優劣関係からは逃れられず、艦の防衛は艦載MSの役目であった。そのため、本艦の武装は主に対艦戦闘や対空防御に用いられていたようだ。

長射程の火器は少ない代わりに、対空機関銃座の数は多い。本艦の航空母艦的な運用コンセプトを表していると言える。

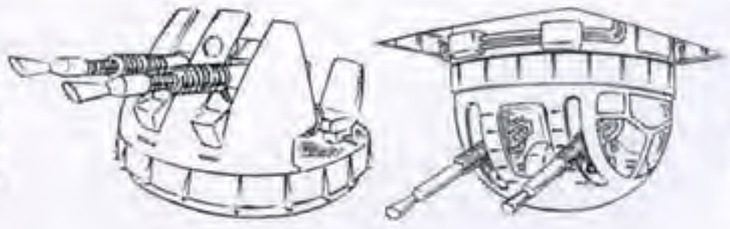
■ 主砲



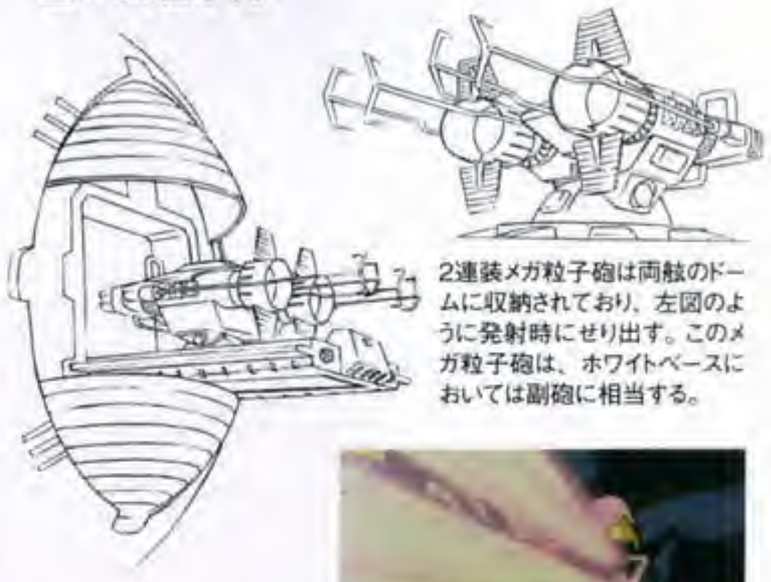
主砲は火薬式の880mm2連装砲（520mm、580mmとも言われる）で、胴体部艦橋前方上面に収納されている。右図は砲塔直下に位置する主砲座で、砲撃手の手動制御で発射を行うシステムだった。照準にはレーザー方式が用いられていたとされる。

■ 対空機関銃座

対空機関銃座（一説には18基、または20mm2連装対空砲座32基とも言われる）も、それぞれに砲撃手が目視で照準を行った。図は左が艦両舷、右が艦底面に設けられた砲座である。



■ メガ粒子砲



2連装メガ粒子砲は両舷のドームに収納されており、左図のように発射時にせり出す。このメガ粒子砲は、ホワイトベースにおいては副砲に相当する。

ジャブロー基地で修理と改修が施された際に、メガ粒子砲は長砲身縦2連装タイプに換装されている。

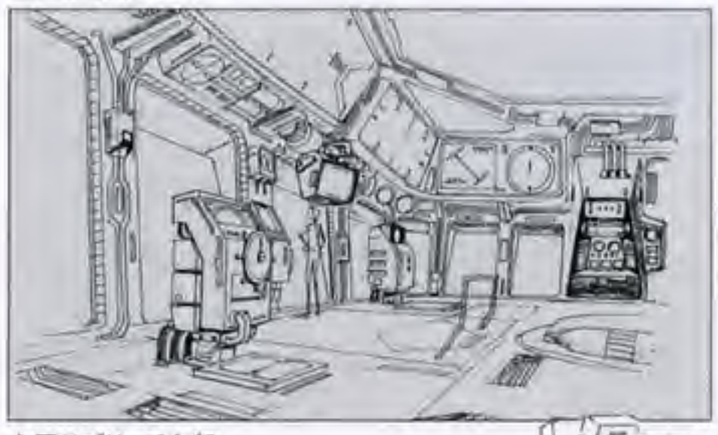
内部設備　MS運用母艦に必要な機能を模索した艦内設備

V作戦に基づいて設計されたホワイトベースは、RXシリーズの運用を想定した運用設備を有している。特に、RXシリーズMSの特徴であるコア・ブロック・システムに対応した設備は独自のもので、本艦の開発経緯を如実に物語っている。また、本艦はMSの迅速な展開を可能とするカタパルトシステムを装備した最初期の艦艇である。なお、このカタパルトは後のMS運用艦の多くに搭載された。

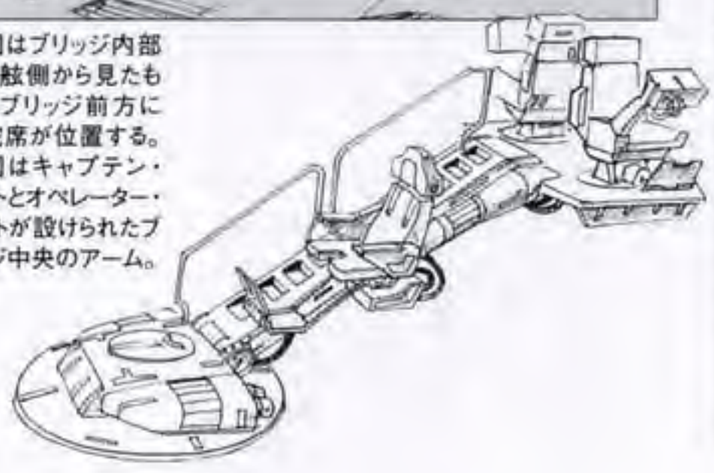
一方で、艦内に設けられた重力ブロックや、充実した艦橋設備などに見られるように、本艦は単独での作戦遂行能力が重視されている。そうした設計は、MSとその母艦の運用理論が確立されていない時代における試行錯誤の表れとも言える。

MSに初速を与えて発艦をサポートすることでMSの推進剤を節約するカタパルトは、MS運用の面で大きな利点となっていた。

■ 艦橋

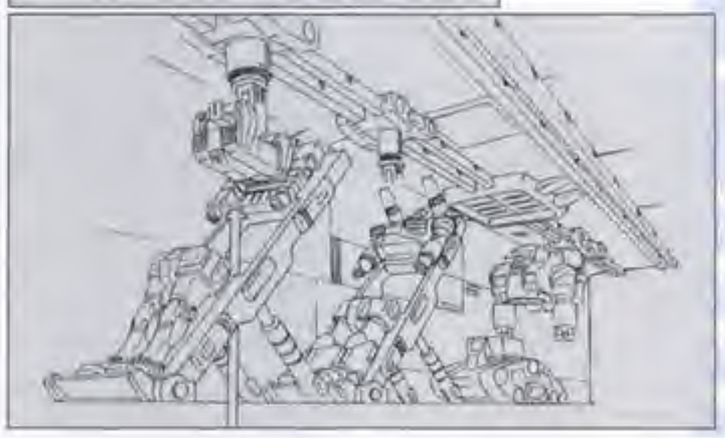


上図はブリッジ内部を左舷側から見たもの。ブリッジ前方に操舵席が位置する。右図はキャプテン・シートとオペレーター・シートが設けられたブリッジ中央のアーム。



■ MS格納庫

左図は左舷第2デッキを後方から見たもの。奥の床面にカタパルトが装備され、天井には整備用クレーンのレールが設けられている。下図はデッキ後部に位置するハンガーである。



©創通・サンライズ

ティターンズ教導団の汎用MS

RMS-141 ゼク・アイン

XEKU-EINS

unknown

■ SPEC

全高	19.20～20.87m（頭頂高 19.20m）
重量	37.63t（全備重量 72.55～87.28t）
ジェネレーター出力	2,100kW
スラスター推力	88,000kg
装甲材質	ガンダリウム・コンポジット
武装	ビーム・ライフル　ビーム・スマートガン／クレイ・バズーカ／ビーム・サーベル×4／クラブ／ミサイル・ポッド 他
所属	ティターンズ教導団（ニューディサイズ）
搭乗者	トッシュ・クレイ／ジョッシュ・オフショー 他

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

胸部
耐久性を重視した胴体。胸部ダクトに地球連邦軍の、腹部動力パイプにジオン公国軍の技術を見ることができる。胸部の装甲は積層化されているようだ。

頭部
額部にセンサー／アンテナのユニットがあり、隊長機にはマルチブレードアンテナと思しき「角」が付く。センサー有効半径は15,000m。

腕部
肩側面にムーバブル・フレームが露出しており、シールドやランディング・ディバイス・システムを接続可能。肩上部には多目的ラッチ&マウント・システムを介して武装などを接続できる。

バックパック
推力14,500kgのスラスターを4基と大容量プロペラント・タンクなどから構成されている。3分割されたテール・スカートの内側には、チャフ・ディスペンサーを搭載。

脚部
頑強な構造の脚部。膝下と足部は特にマッシブなフォルムを持つ。各脚に推力15,000kgのスラスターを1基ずつ、プロペラント・タンクを2基ずつ備える。

堅実な構造と多彩なオプションから成る汎用MS

RMS-141 ゼク・アインは、小惑星基地ペズンで推進された実験機プロジェクト「Xシリーズ」において最初に開発されたMSである。一年戦争後、ジオン公国軍のMS開発拠点だったペズンは地球連邦軍に接収され、開発機関も地球連邦軍の監視下に置かれた。後にティターンズの教導団が駐屯するようになると、教導団の特性とジオン公国軍時代の「MS-X」プロジェクトで培われた技術を活かし、「Xシリーズ」の開発が進められた。

この結果、誕生したゼク・アインは簡素かつ堅牢なムーバブル・フレームと高出力ジェネレーターを併せ持っていた。超高性能機や奇抜なMSを生み出した「MS-X」プロジェクトをベースとする機体としては、保守的な仕様だった。こうした仕様に反してゼク・アインには多彩なオプションが用意され、兵装だけに限ってもビーム・ライフル、マシンガン、遠射用ビーム・スマートガン、クレイ・バズーカ、ミサイル・ポッドなどが存在する。

多彩なオプションは「器用貧乏」なMSを生み出しかねないが、ゼク・アインはシステムの骨子となるMSが堅牢かつ高出力であるためオプションにパワー負けせず、換装により専用機並みの性能を発揮できた。

関連ファイル

RMS-142 ゼク・ツヴァイ 他	AGS-01-65
ティターンズのMS開発	Z-03-20
ティターンズ	Z-03-34
グリプス戦役	Z-03-42

FILE PREVIEW

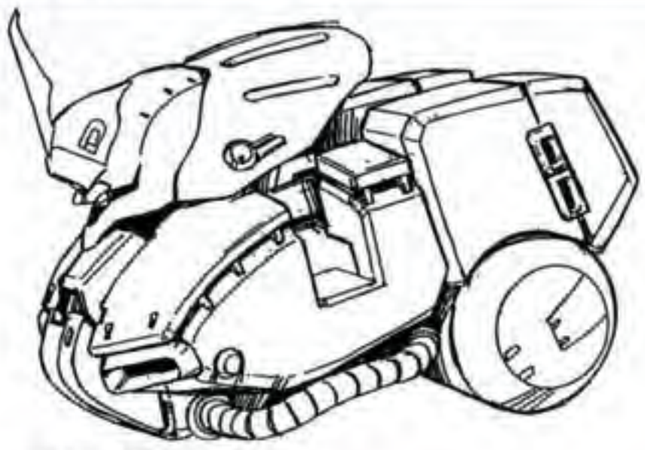
Z-03-20　ティターンズのMS開発

ジオン残党狩りを目的として結成されたティターンズは、地球連邦軍製MSに加え、アナハイム・エレクトロニクス社などにもMS開発を行わせていた。

機体構造　コンセプトを実現した基本構造

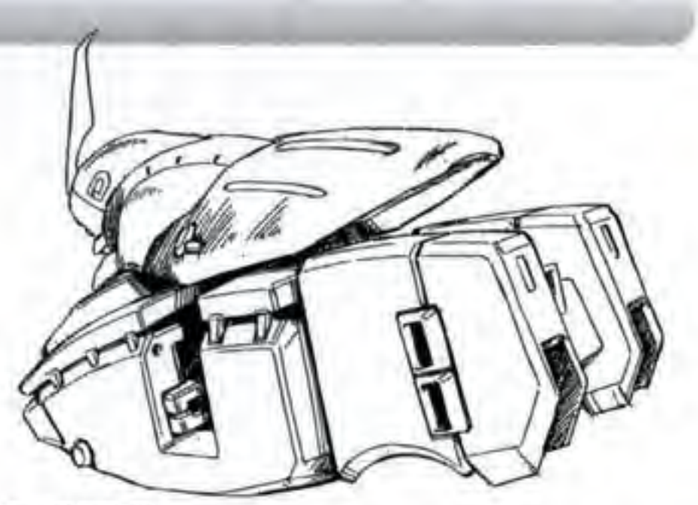
グリプス戦役勃発後（おそらくティターンズへのマラサイ譲渡後）に開発されたと思われるゼク・アインは、全天周囲モニターとリニア・シート、ガンダリウム合金、ムーバブル・フレームの導入から第二世代MSに分類できる。

そのムーバブル・フレームは簡素で堅牢な構造とされた。大質量のオプションを搭載しつつ、過酷な実戦に耐えるために必要な措置だった。また、肩のフレームは一部が露出しており、シールドなどのオプションを接続可能としている。2,100kWを発揮するジェネレーターは、遠射用ビーム・スマートガンに代表される大出力ビーム兵器や、大重量化する機体を駆動させるに足るものだった。こうした基本構造が、オプションを大量搭載する新世代の汎用MSというゼク・アインのコンセプトを実現させているのである。



■ 頭部／胸部

多重化された胸部装甲が見て取れる。装甲はコクピット・胸部・股間に重点的に配置された。こうした装甲の配置もスタンダードなものだった。



■ 後頭部

マラサイと異なり後頭部は中空構造ではない。バックパックの側面には方形の姿勢制御バーニアが見える。姿勢制御バーニアは計10基搭載。

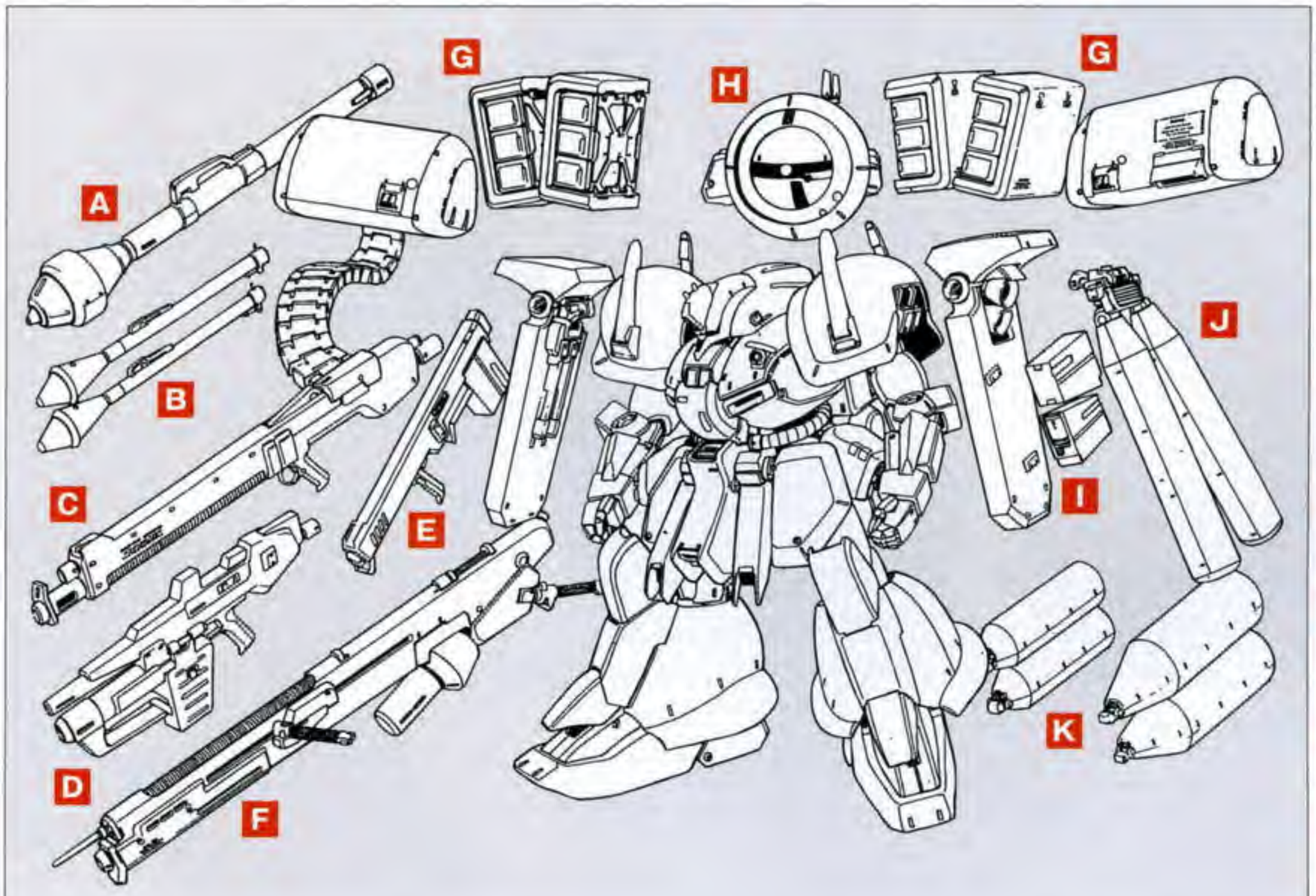
武　装　広範なミッションに対応するオプション

ゼク・アイン用の武装は、MSの基本装備であるビーム・ライフルとビーム・サーベル、実体弾兵装のマシンガンやミサイル・ポッドなど多岐に亘り、様々なミッションに対応できる。装備だけを見るとRMS-106 ハイザックと似ているが、ゼク・アインは高出力ジェネレーターの搭載により、ふたつ以上のビーム兵器を同時に使用できるほか、火力や多用途性も全体的に高くなっている。

ゼク・アイン用火器の中でも有名なマシンガンは、徹甲弾などの120mm口径弾を毎分360～540発の速度で発射する。給弾ベルトを介してマシンガンと接続されるドラム弾倉は、両肩上に各1基を搭載。ドラム弾倉1基の装弾数は約6,000発で、給弾ベルトなどに搭載されたローディング機能により、最後の1発まで発射可能である。

手持ち火器を除くオプションの大半は、肩側面に露出したムーバブル・フレーム、または肩アーマーの多目的ラッチ&マウント・システムを介して搭載される。シールドも武装搭載機能を持っており、裏面にはビーム・サーベル（出力0.9MW）2基、表面には補助火器や弾倉を搭載可能。

ビーム・ライフル、マシンガン、大出力ビーム砲などを運用するMSとしてハイザックが知られるが、ゼク・アインほどシステム化されていない。



■ 武装・オプション一覧

左にあるように、ゼク・アインには多彩な武装やオプションが用意された。任務によって装備形態を変更することで、ゼク・アインはより高度な汎用性を獲得していたのである。

- A クラブ（大）
- B クラブ（小）
- C マシンガン、給弾ベルト、ドラム弾倉
- D ビーム・ライフル（グレネード・ランチャー装備）
- E クレイ・バズーカ
- F 遠射用ビーム・スマートガン
- G ミサイル・ポッド
- H ディスク・レドーム・システム
- I シールド（ビーム・サーベル搭載）
- J ランディング・ディバイス・システム
- K プロペラント・タンク

運　用　3つの装備形態

ゼク・アインはオプションの混成装備が可能と思われるが、通常は3つの基本的な装備形態から選択される。ミッションに最適化された武装フォーマットが、3種類存在するのである。それがビーム・ライフル兵器携帯型の第一種兵装、長距離攻撃用の第二種兵装、実体弾兵器搭載型の第三種兵装だった。ビーム・カノン搭載用、マインレイヤー用、月面降下用などのオプションもあり、ミッションによって組み合わせる。クレイ・バズーカ、ミサイル・ポッド、クラブ（いわゆる「シュツルム・ファウスト」）は補助火器に位置付けられ、必要に応じて選択／装備された。

■ 第一種兵装

ビーム・ライフル兵器携帯型。火器はグレネード・ランチャー付きビーム・ライフルで、両肩にランディング・ディバイス・システムのみ搭載する。3形態の中でも最も軽装で、火力と機動性を両立しているようだ。全高19.20m、全備重量72.55t。

■ 第二種兵装

長距離攻撃用。火器として遠射用ビーム・スマートガンを、左肩にディスク・レドーム・システムとシールドを搭載する（右肩はブランク）。ビーム・スマートガンとディスク・レドームは対の装備で必ず並列装備する。全高20.87m、全備重量80.25t。

■ 第三種兵装

実体弾兵器搭載型。主武装はマシンガンで、両肩にドラム弾倉とシールドを装備する。シールドに副武装であるクレイ・バズーカ1丁とその予備弾倉ふたつを搭載。全高20.05m、全備重量87.28t。

©創通・サンライズ

装甲システム評価用の試作MS

FA-010A

ファッツ

FAZZ

E.F.S.F.

■ SPEC

全高	22.11m（頭頂高 19.86m）
重量	45.4t（全備重量 94.6t）
ジェネレーター出力	8,070kW
スラスター推力	118,800kg
装甲材質	ガンダリウム合金
武装	ダブル・ビーム・ライフル　ハイパー・メガ・カノン／60mmバルカン×2 他
所属	地球連邦軍
搭乗者	シン・クリプト　ジョン・グリソム／ロバート・オルドリン

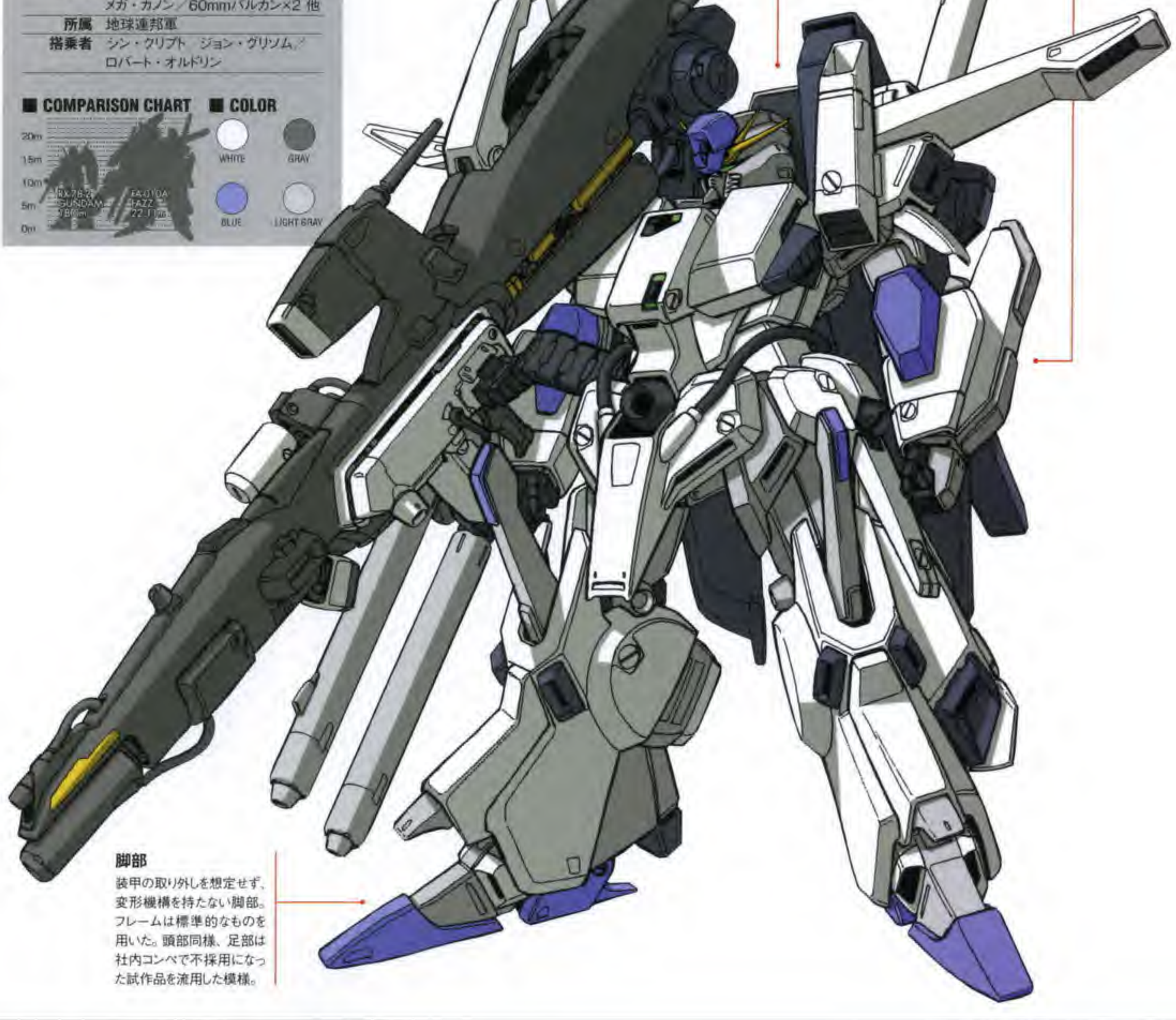
■ COMPARISON CHART

■ COLOR

WHITE　GRAY　BLUE　LIGHT GRAY

頭部
アナハイム・エレクトロニクス社（AE）の社内コンペティションで敗れた試作品を流用したという頭部ユニット。ハイ・メガ・キャノンと4門あるバルカン砲の上段2門はダミーである。

腕部
フルアーマーZZガンダムのものを模した腕部。肩部のスプレー・ミサイル・ランチャーのみオプションであり、増加装甲相当部は取り外しできない。



脚部
装甲の取り外しを想定せず、変形機構を持たない脚部。フレームは標準的なものを用いた。頭部同様、足部は社内コンペで不採用になった試作品を流用した模様。

“プレ”フルアーマーZZガンダム

FA-010A FAZZ（ファッツ）は、FA-010S フルアーマーZZガンダムの評価試験機に相当する試作MSである。ただしフルスペックではなく、フルアーマー状態の機体性能のみを試験するものだった。FAZZには、合体変形機構やハイ・メガ・キャノンを省略したZZガンダムの先行試作機にフルアーマー用増加装備の試作品を装備した機体と、最初からFAZZとして製造された機体が存在するが、外見／性能ともに差はないとされている。

出自を見てもわかるように、FAZZは汎用フレームを用いた非変形機で、増加装備も固定式である。これに加えて、頭部と腹部のハイ・メガ・キャノンがダミーで、外装はガンダリウム合金を用いているものの、実際はフルアーマーZZガンダムよりワンランク劣るものだった。

それでも、頭部やバックパックなどの形状を除けば、実機と同等の性能を持っていた。また、フルアーマーZZガンダムが実装しなかったハイパー・メガ・カノンを搭載しており、火力に限定すればU.C.0088時、最強クラスのMSであった。ZZガンダムから6ヶ月先行してロールアウトしたFAZZは、3機がα任務部隊に配備され、対ニューディサイズ戦に投入されている。

関連ファイル

FA-010S フルアーマーZZガンダム	ZZ-01-02
フルアーマー・オペレーション	80-03-05
Z計画	Z-03-18

FILE PREVIEW

Z-03-18　Z計画

U.C.0080年代後半にアナハイム・エレクトロニクス社が進めた可変MS開発計画。Zガンダムの完成以降も継続され、ZZガンダムなどが開発された。

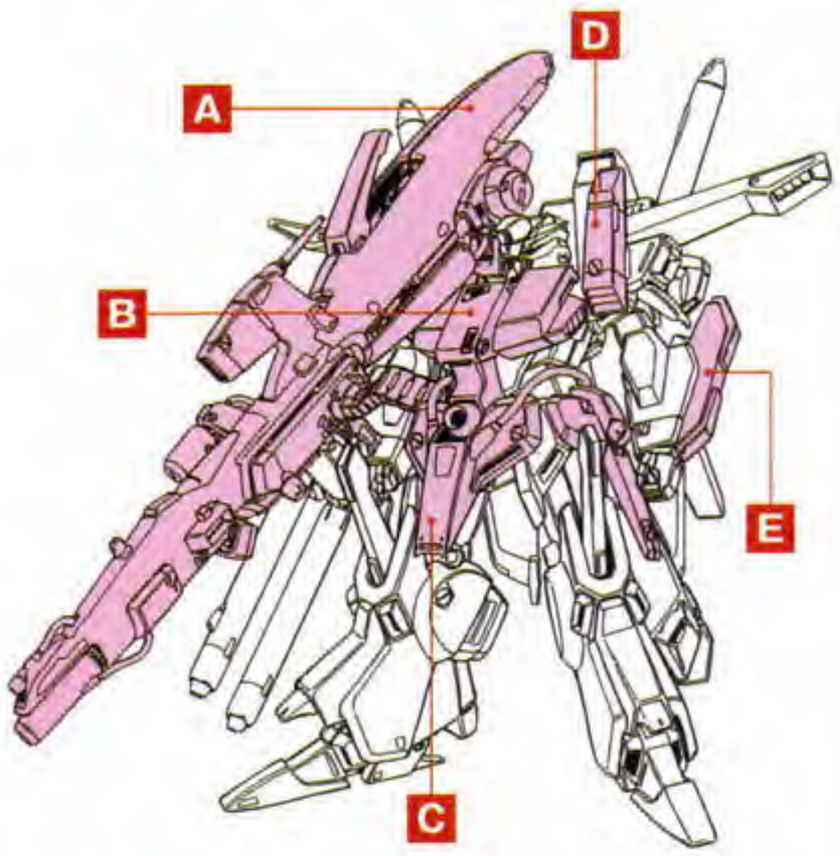
武　装　超高出力火器とダミーが混在する武装

主兵装のハイパー・メガ・カノンを筆頭に、出力12MWの背部ビーム・カノン2門、バックパック左部のミサイル・ポッドに収められたAMA-13Sミサイルなど、FAZZは無数の火器を装備している。これらの武装がもたらす火力は、MSZ-010 ZZガンダムやMSA-0011 Sガンダムに代表される当時のハイエンドMSをも凌駕するものがあった。また、一撃でMSを粉砕する大出力ビーム兵器から、広い射界を誇るマイクロ・ミサイルまで、様々な特性を持つ武装が揃っており、様々な攻撃対象に対応できる点も優れている。

その一方で、ZZガンダムと異なり背部ビーム・カノンをビーム・サーベルに転用できないため、近接戦闘は苦手とした。ただし、長大なハイパー・メガ・カノンを装備するFAZZは接近戦に向いておらず、実戦では長距離攻撃や支援に投入すべきMSだった（フルアーマーZZガンダムがハイパー・メガ・カノンを装備しなかったのは、近接格闘能力の低下を嫌ったためとも考えられる）。

頭部と腹部のハイ・メガ（粒子）・キャノンがダミーなのは、FAZZの設計上、仕方のないことだった。

ダブル・ビーム・ライフル（出力10.6MW×2）は実機と同じく、右前腕に外装する。コア・トップ用のコクピットはダミーになっていた。

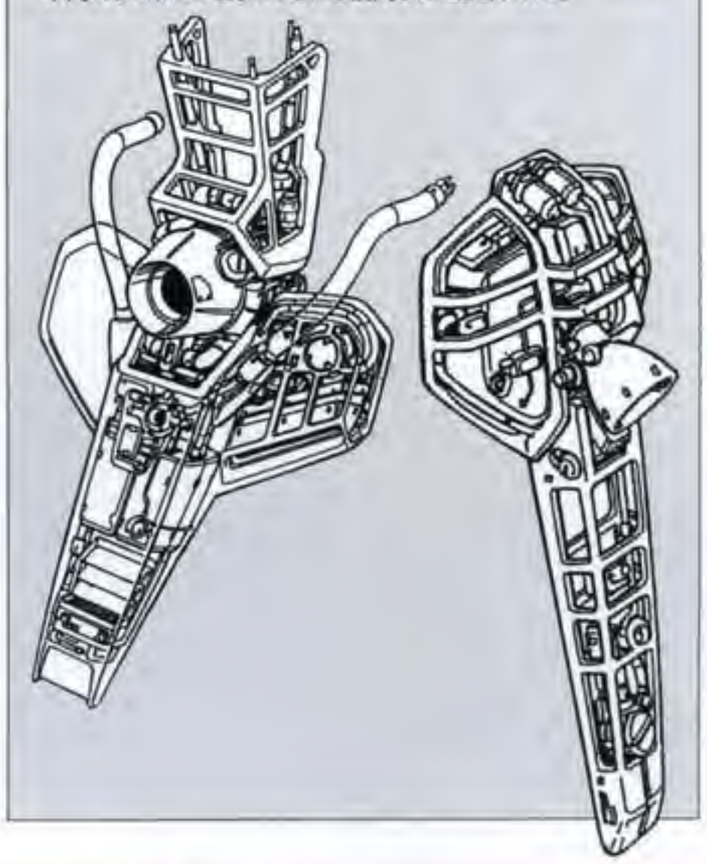


A ハイパー・メガ・カノン

バックパックの右側に接続された大出力ビーム砲。出力はハイ・メガ・キャノンすら上回る79.8MWで、全長はFAZZ本体よりも長い。数秒間隔で連射可能だった。

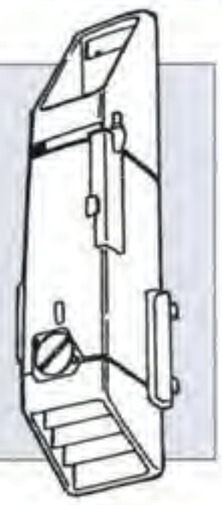
C 腹部ハイ・メガ粒子・カノン

腹部の増加システムに搭載されたダミーで、発射はできない。エネルギーサプライケーブルは実用品であり、射軸制御や増加装甲内のシステムチェックなどにも使用されたと言われる。



D スプレー・ミサイル・ランチャー

肩の前面に外装される多連装ミサイル発射機。発射口は6つで、小型ミサイルを散布する。ハイパー・メガ・カノン搭載時は左肩のみに装備（フルアーマーZZは両肩に設置した）。

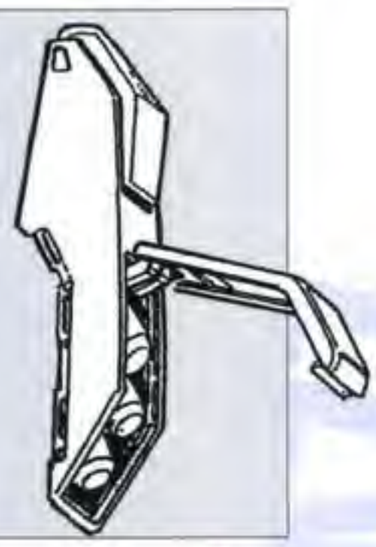


B 胸部増加システム

両胸はミサイル・ポッドとなっており、AMA-09Sミサイルを計16発、AMA-13Sミサイルを計4発搭載する。装甲はガンダリウム合金製の空間装甲になっている。中央部にIフィールド・ジェネレーターを搭載するとの説もある。

E 腕部増加システム

補助バーニアを搭載した肩部増加装甲と、ミサイル・ポッド（右前腕はダブル・ビーム・ライフル）搭載の前腕部増加装甲から成る。ミサイル・ポッドには左右で計8発のミサイルを搭載する。



SCIENCE Key Word　「ガンダム」における フルアーマーの歴史

火器や補助推進器を備えたMS用増加装甲システムの歴史は、地球連邦軍の「FSWS（Full-armor System and Weapon System）計画」に始まる。これは少数精鋭部隊での運用を想定し、MS単体の性能向上を目指したものだった。実機の存在は不明だが、その最初の例とされる機体がRX-78-2ガンダムの増加装甲仕様FA-78-1 フルアーマー・ガンダムである。以降もフルアーマー仕様のガンダムは度々計画された。

フルアーマーZZガンダムの後、FA-93HWS Vガンダム（ヘビー・ウェポン・システム装備型）が計画された。実用化されたものとしてはV2アサルトバスターガンダムが知られる。

FA-78-1
フルアーマー・ガンダム
初めて計画された「フルアーマー・オペレーション」仕様のガンダム。RX-78-3 G-3ガンダムを素体とした計画もあった。

RX-78NT-1FA
アレックス（チョバム・アーマー装備型）
補助推進器と増加装甲から成るフルアーマーを装備したアレックス。確認されている中では、史上初のフルアーマーの実機である。

FA-010S
フルアーマーZZガンダム
FAZZを経て実用化された、フルアーマー仕様のZZガンダム。攻防力の強化と共に、コア・ブロック・システムの脆弱性を補っている。

GNW-20000 アルケーガンダム
ARCHE GUNDAM

unknown

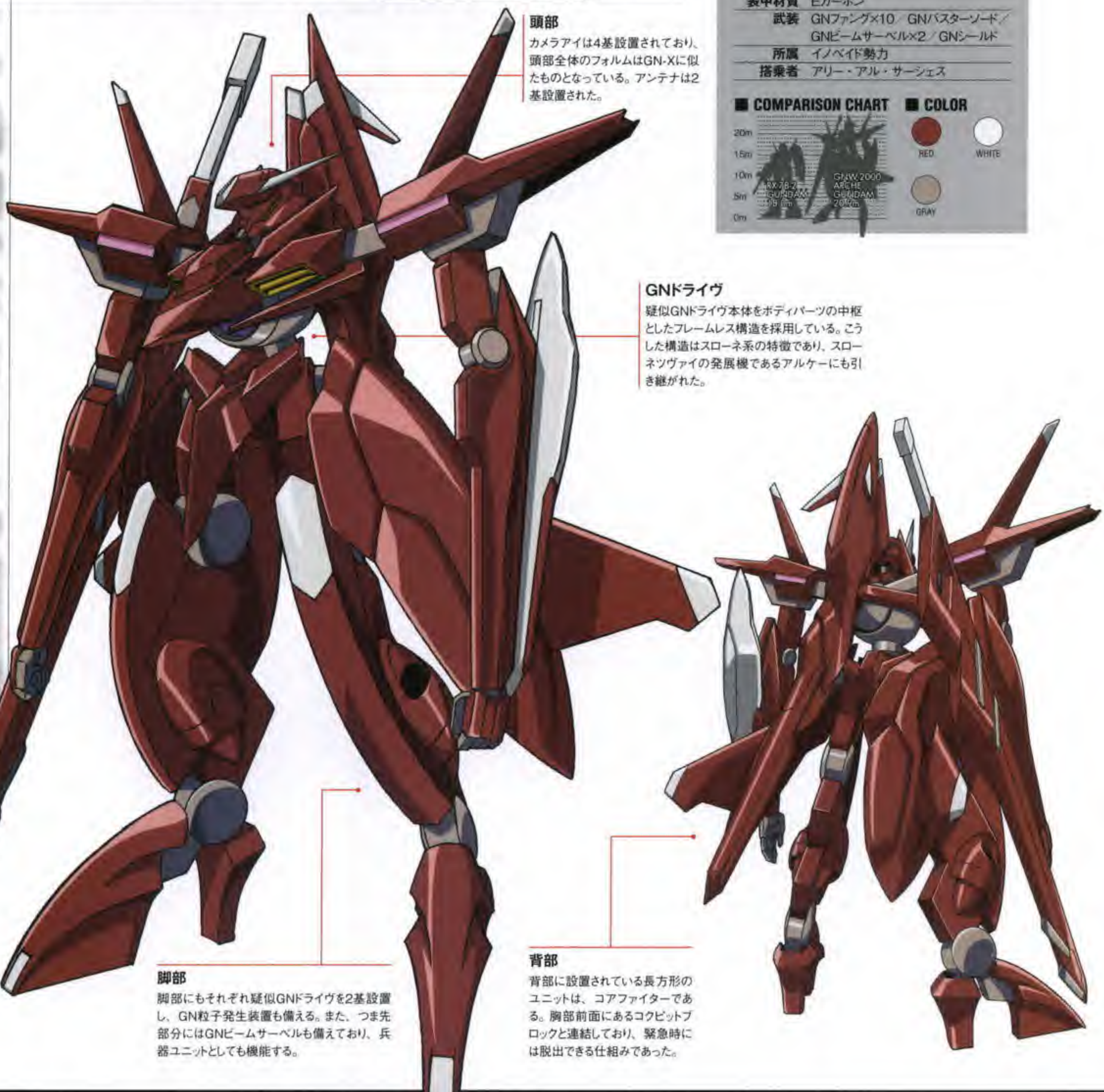
サーシェスが用いたスローネの発展機

■ SPEC

全高	——（頭頂高 20.9m）
重量	72.9t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	Eカーボン
武装	GNファング×10／GNバスターソード／GNビームサーベル×2／GNシールド
所属	イノベイド勢力
搭乗者	アリー・アル・サーシェス

■ COMPARISON CHART

■ COLOR



頭部
カメラアイは4基設置されており、頭部全体のフォルムはGN-Xに似たものとなっている。アンテナは2基設置された。

GNドライヴ
疑似GNドライヴ本体をボディパーツの中枢としたフレームレス構造を採用している。こうした構造はスローネ系の特徴であり、スローネツヴァイの発展機であるアルケーにも引き継がれた。

脚部
脚部にもそれぞれ疑似GNドライヴを2基設置し、GN粒子発生装置も備える。また、つま先部分にはGNビームサーベルも備えており、兵器ユニットとしても機能する。

背部
背部に設置されている長方形のユニットは、コアファイターである。胸部前面にあるコクピットブロックと連結しており、緊急時には脱出できる仕組みであった。

イノベイド勢力が開発したスローネ系MSの最終形

リボンズ・アルマークをリーダーとするイノベイド勢力からは、その優れた技術力を活かしたMSが多数戦場へ投入された。アルケーガンダムも、イノベイドが開発を手掛けたMSの1機であり、リボンズの下で暗躍した傭兵・アリー・アル・サーシェスの乗機として、その圧倒的な戦闘力を見せ付けたMSである。

アルケーは、西暦2307年の戦いでミハエル・トリニティが運用した、ガンダムスローネツヴァイをベースに開発された機体である。GNファングやGNバスターソードといったツヴァイの装備を引き継いでいるほか、GNドライヴ［T］（疑似GNドライヴ）を計3基搭載し、圧倒的な出力を獲得している。これにより、スローネアインやスローネドライといった兄弟機のコンセプトも集約することが可能となり、GNステルスフィールドを応用したGN粒子発生装置の内蔵が実現した。また、その装備や機体特徴からガンダムエクシアなどの第三世代ガンダムやジンクスの設計思想、さらにガデッサやガラッゾといったGNZシリーズとの関連性が窺えるのも特徴である。

機体はスローネツヴァイを奪取したサーシェスに引き続き運用され、プトレマイオスの前に立ちはだかっている。

関連ファイル

GNW-001 ガンダムスローネアイン／GNW-002 ガンダムスローネツヴァイ	00-01-22
GNW-003 ガンダムスローネドライ（リィアン）	00-01-24
GNZ-003 ガデッサ／GNZ-005 ガラッゾ	00-01-48
アリー・アル・サーシェス	00-02-34

FILE PREVIEW

00-02-34 アリー・アル・サーシェス

元KPSA幹部で、各勢力の部隊を渡り歩く傭兵。西暦2312年の戦いでは、リボンズ・アルマークをリーダーとするイノベイド勢力に加担した。

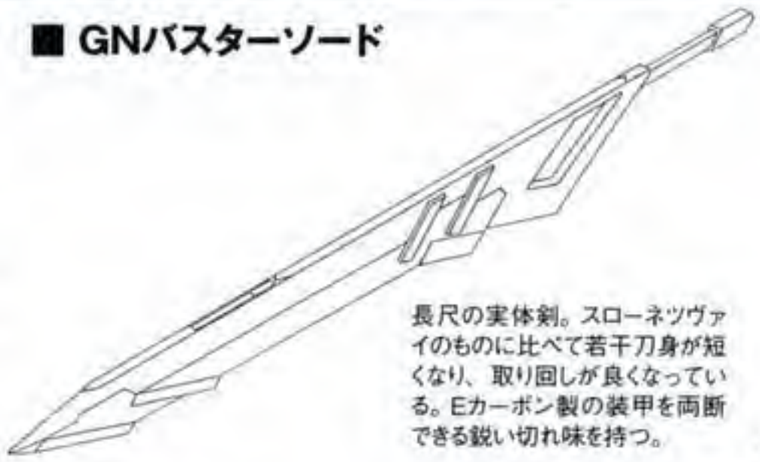
武　装　あらゆる距離に対応する充実の武装群

アルケーに備えられた武装群は、ガンダムスローネツヴァイが装備していたものの発展型である。中でもメイン兵器として用いられたのが、遠隔打突兵器であるGNファングで、スローネツヴァイの8基から2基追加され、計10基を装備する。その能力も若干向上しており、敵機の牽制・迎撃・急襲など、用途も幅広い。また、近距離戦闘で力を発揮するGNバスターソードには、新たにライフルモードが追加され、中距離での運用も可能となった。脚部には、隠し武器としてGNビームサーベルを装備。肉弾戦の際、つま先からGN粒子を放出し、敵装甲にダメージを与えることが可能となっている。唯一の防御兵装であるGNシールドは、先端からGNフィールドを発生させて攻撃にも転用ができた。

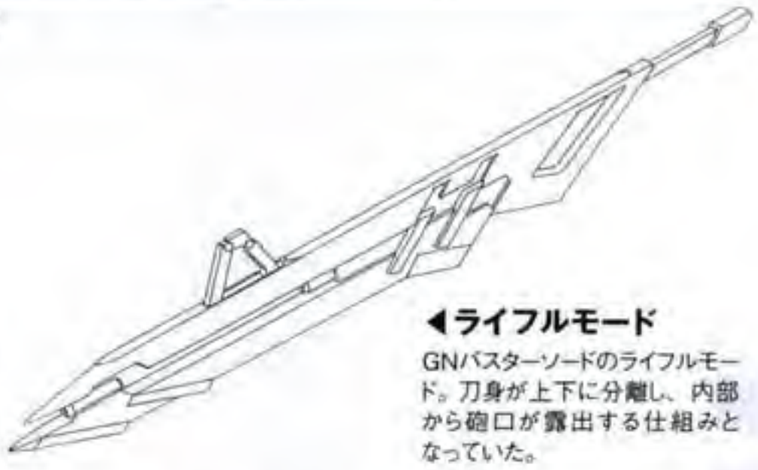
近接格闘用の兵器が中心となっているものの、アルケーの武装群はスローネツヴァイと比較しても飛躍的に戦闘の幅が広がっており、あらゆる距離における戦闘への対応が図られている。

アルケーの武装運用には高い状況判断能力が必要であったが、サーシェスはファングなどを縦横無尽に操り、その戦闘力を最大限に発揮した。

■ GNバスターソード



長尺の実体剣。スローネツヴァイのものに比べて若干刀身が短くなり、取り回しが良くなっている。Eカーボン製の装甲を両断できる鋭い切れ味を持つ。

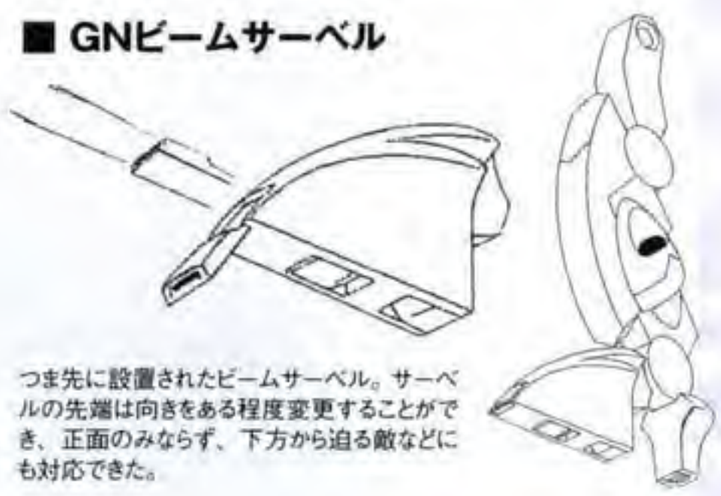


◀ライフルモード
GNバスターソードのライフルモード。刀身が上下に分離し、内部から砲口が露出する仕組みとなっていた。

■ GNシールド

左肘にジョイントされているシールド。先端に発生器が2基設置されており、使用時は発生器自体が回転して「八」の字に固定され、その部分からGNフィールドを発生させることができる。

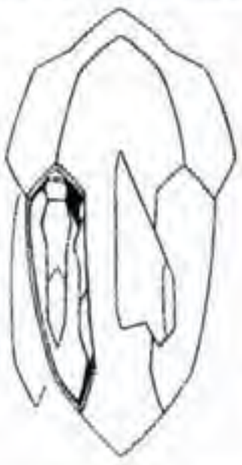
■ GNビームサーベル



つま先に設置されたビームサーベル。サーベルの先端は向きをある程度変更することができ、正面のみならず、下方から迫る敵などにも対応できた。

■ GNファング

腰部のサイドアーマーに設置された遠隔打突兵器。各基とも自力で飛行する能力を持ち、オールレンジ攻撃が可能。先端からビームを射出できるほか、ビームサーベルともなる。



GNファングを内部に格納するサイドアーマー。使用時には、左右に設けられた射出口からファング本体が放たれる。

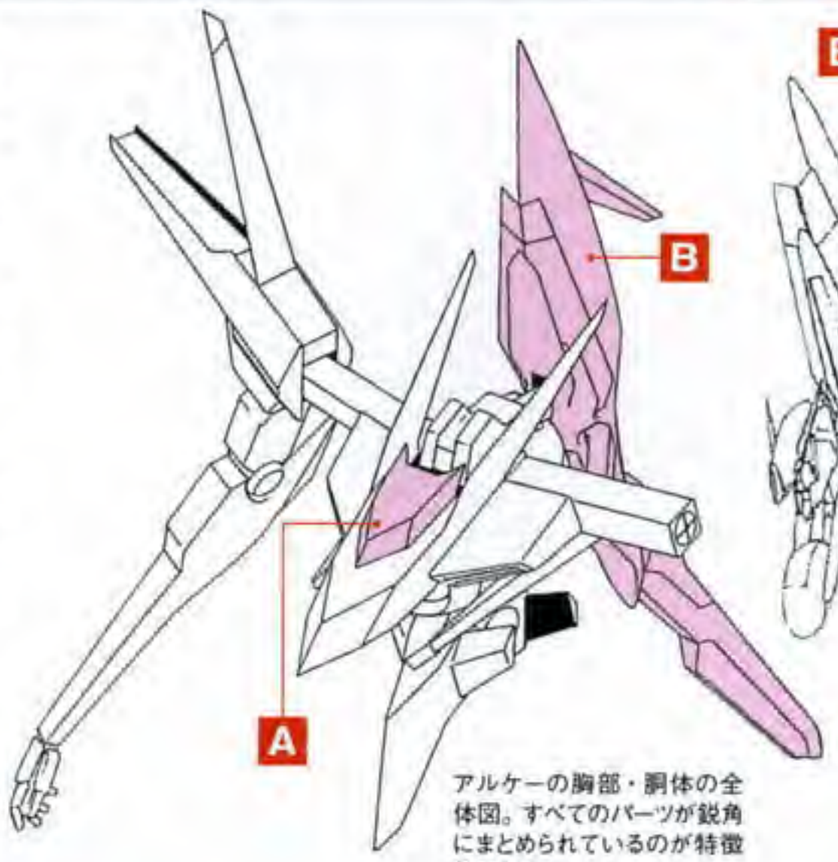
GNファングの射出と攻撃時。サーシェスはファングによる攻撃で敵機を翻弄し、その後GNバスターソードなどでとどめを刺す戦法を得意としていた。

構　造　フレームレス構造と脱出システム

アルケーは、疑似GNドライヴ本体をボディパーツとするなど、外殻を持たないフレームレス構造となっている。腕部・脚部などの各パーツは細長いラインで形成されており、ガンダムタイプの中でも人型からは最も離れた、異形のフォルムを有している。また、本機の背部には、コクピット部と連結したコアファイターが搭載されており、緊急時には機体本体からパージされ、単独で飛行できる構造となっていた。コクピットパーツのみ背部から胸部へと差し込まれるそのレイアウトは、フレームレス構造を採用したアルケーならではのものと言えるだろう。

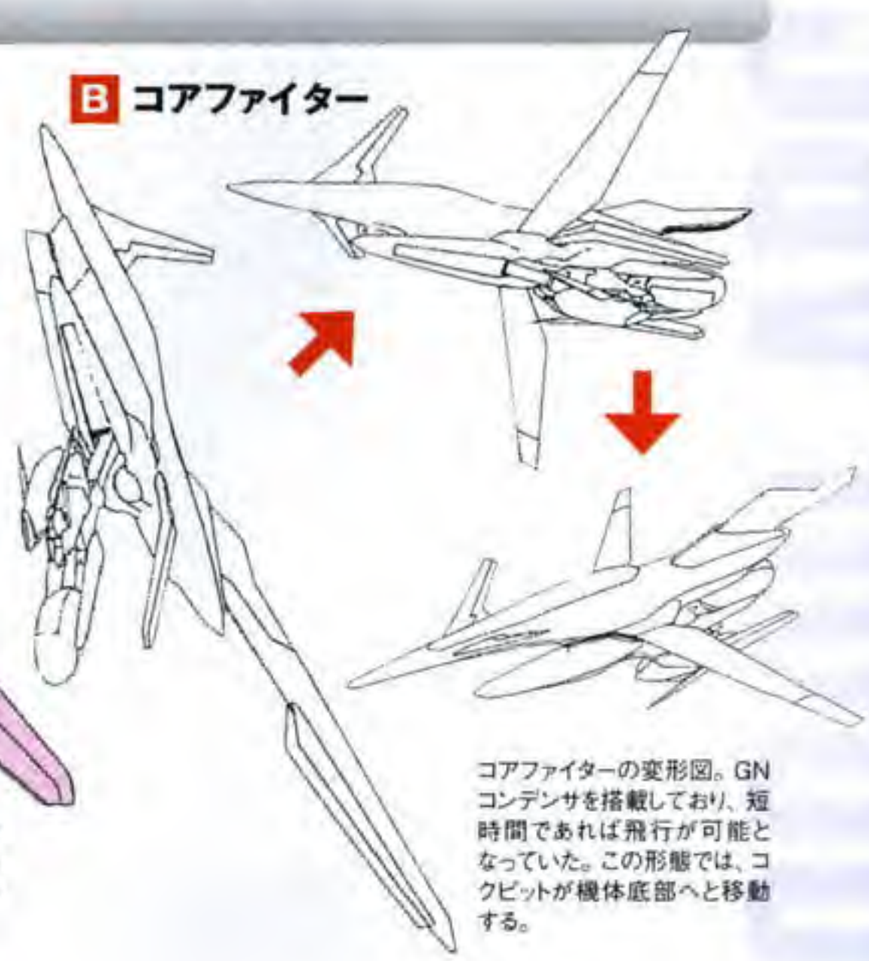
コアファイターで戦場を脱出するサーシェス。この機能はGNZシリーズにも採り入れられたが、本機はその先行実験機と言われている。

アルケーを操るサーシェス。GNファングの装備を含め癖の多い機体であるが、サーシェスのテクニカルな戦い振りにマッチした機体であると言える。



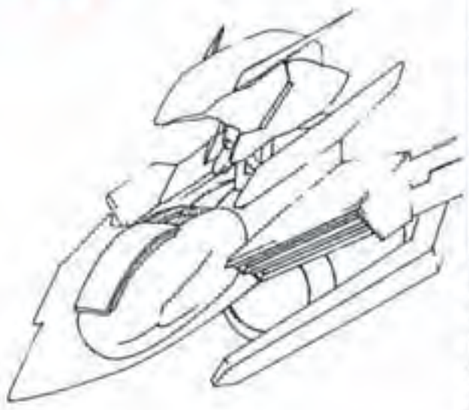
アルケーの胸部・胴体の全体図。すべてのパーツが鋭角にまとめられているのが特徴的である。

B コアファイター



コアファイターの変形図。GNコンデンサを搭載しており、短時間であれば飛行が可能となっていた。この形態では、コクピットが機体底部へと移動する。

A コクピットハッチ／コクピット



胸部前面の装甲内に設置されたコクピットハッチ。パイロット搭乗時にはハッチが前方へスライドする仕組みとなっていた。

コクピットは細長いタマゴ形をしており、リラックスした姿勢でのコントロールを可能としている。コアファイター時でもこの形状に変化はない。

■ 頭部

プトレマイオスクルーが運用するガンダムとは、大きく異なる頭部。側面からの図では、センサーを設置した頭頂部の先端が大きく突き出ているのが窺える。

©創通・サンライズ・毎日放送

アムロ・レイ編

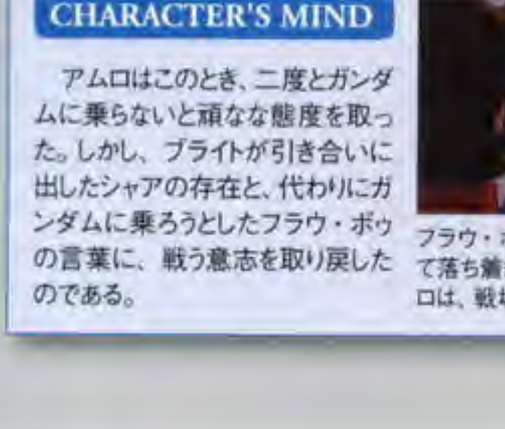
Case of Amuro Ray

戦いに巻き込まれてガンダムのパイロットとなり、ニュータイプとして覚醒していった少年アムロ・レイ。彼の言葉からその足跡を追う。

アムロ・レイの戦いには成長と苦悩の跡があった

U.C.0079.09.18　サイド7宙域　劇場版I

これが……戦い……



ブライト・ノアの制止を振り切ってシャアに挑んだアムロだったが、いいように翻弄される。結局、ガンダムの性能に助けられるのだった。

U.C.0079.09.18、サイド7・1バンチで起こった地球連邦軍とジオン公国軍の遭遇戦に巻き込まれたアムロは、ガンダムに乗り込んでMS戦闘を経験する。戦闘に勝利したアムロは、状況に流されるままホワイトベースに身を寄せた。そして、コロニーからの脱出を図ったホワイトベースを狙うシャア・アズナブルと初めて対峙し、戦場の空気に慄然とする。

アムロにとって、サイド7遭遇戦は窮地を脱することのみを考えて必死に戦っただけであり、それ以外を考えている余裕はなかった。だが、コロニー脱出時の戦闘は、アムロ自身が未熟とはいえ覚悟を持って臨んだ戦いだった。しかし、アムロの前に立ちはだかったのは、ジオン公国軍のエースパイロット、「赤い彗星」の異名を持つシャアであった。彼の圧倒的な力を前にして、アムロは自らが選んだ現実の苛酷さを肌で感じることになったのである。

U.C.0079.09.23　地球・北米　劇場版I

二度もぶった！ 親父にもぶたれたことないのに！

CHARACTER'S MIND

アムロはこのとき、二度とガンダムに乗らないと頑なな態度を取った。しかし、ブライトが引き合いに出したシャアの存在と、代わりにガンダムに乗ろうとしたフラウ・ボゥの言葉に、戦う意志を取り戻したのである。

フラウ・ボゥの言葉を聞いて落ち着きを取り戻したアムロは、戦場に戻っていった。

大気圏突入時にシャアの攻撃を受けたホワイトベースは、ジオン公国軍の勢力圏である北米に降下した。一方、ガンダム単独での大気圏突入という危険を冒さざるを得なかったアムロは、それまでの疲労もあって戦いを忌避するようになる。だが、ホワイトベースはガルマ・ザビ率いる部隊に包囲され、ブライトはその状況になっても出撃を拒むアムロを殴り付ける。アムロはブライトの暴力に理不尽を感じ、思わず幼稚な言葉で言い返したのである。

サイド7遭遇戦以来、アムロには心が休まる暇はなかった。度重なる戦いと、それを強要する周囲――死の恐怖と過度の重圧が、アムロを蝕んでいたのだ。だが、ホワイトベースにアムロの心情を斟酌している余裕はなく、ブライトは暴力に訴えるしかなかった。そして、アムロにもそうした事情を受け止める度量はなく、先の言葉が口を突いて出たのだった。

U.C.0079.10〜11　地球・カスピ海東岸　劇場版Ⅱ

僕は……僕は……あの人に勝ちたい

敵だと気付きながらも自分を見逃すラルの度量に、アムロは大人の姿を見る。それは実の父親にも感じられなかった父性だった。

ホワイトベースがユーラシア大陸に到達してからしばらくの後、アムロはブライトと衝突してホワイトベースを脱走する。その放浪の中でアムロはランバ・ラルと出会い、彼の度量の大きさを目の当たりにする。さらに、戦場で相対したラルを退けたものの、ガンダムの性能に頼っているだけの自らの未熟さを指摘される。そして、ホワイトベースに戻って独房に入れられたアムロは、悔しさに苛まれながらラルを超えたいと心から思うのだった。

アムロがホワイトベースを脱走することになった理由のひとつは、彼自身の驕りにあった。自分がホワイトベースを守っているのだという自惚れがブライトの不信を招き、ガンダムを降ろされそうになったために、アムロはその現実から逃げたのだった。しかし、ラルとの出会いで自らの未熟さを思い知り、それを乗り越えるために彼に勝ちたいと強く意識したのである。

U.C.0079.12.30　宇宙　劇場版Ⅲ

僕は取り返しのつかないことをしてしまったんだ……
ああ……僕はララァを……殺してしまった……

U.C.0079.12、ホワイトベースは宇宙に上がりサイド6に寄航する。アムロはそこでララァ・スンと出会い、彼女の存在に強い印象を受ける。だが、アムロとララァが再会したのは戦場においてであった。ソロモン攻略戦の後、ア・バオア・クーに進撃したホワイトベースはキシリア・ザビ麾下の突撃機動軍艦隊と交戦する。アムロはその戦場でララァと相対し、共感現象の中で意思を交わしながらも、最後にはシャアを庇ったララァの命を奪ってしまう。

アムロはサイド6でララァと多くの言葉を交わしてはいない。それでも、ふたりはニュータイプとして言葉以上の共感を有した。戦場で再会を果たしたアムロはララァとより明確な共感を得たが、彼女を敵として倒すという運命を避けられなかった。ララァを介してニュータイプを自覚しながら、その結果が彼女の死であったことに、アムロは悔恨の念を抱いたのである。

CHARACTER'S MIND

ララァの死はアムロを終生縛り付け、彼の精神に影を落とした。一年戦争後にアムロが長く鬱屈する原因となり、それ以降も彼に少なからず影響を与えた。アムロにとってララァの死は、まさに取り返しのつかないことだったのである。

「シャアの反乱」の頃には、アムロは度々ララァを夢に見るようになっていた。

U.C.0079.12.31　ア・バオア・クー　劇場版Ⅲ

ごめんよ……まだ僕には帰れるところがあるんだ
こんなにうれしいことはない……

ア・バオア・クーを脱出したアムロは、仲間たちが待つランチに向かう。アムロにとっての一年戦争は、この瞬間に終わりを告げた。

一年戦争最後の戦いとなったア・バオア・クー攻防戦において、アムロはシャアのジオングと相討ちになる。その後、要塞内に入り込んだアムロは生身でシャアと対峙し、決闘の末に決別する。一方、ホワイトベースは要塞に座礁し、乗組員たちは白兵戦の最中にあった。ホワイトベースの轟沈を予期したアムロは仲間たちに退艦を促し、自らも残されたコア・ファイターで脱出を図る。そして、ア・バオア・クーの爆発から逃れ、仲間たちの元へと帰っていったのである。

アムロはかつて、ララァに守るべきものを持たないと評された。しかし、アムロは一年戦争の最後にこれまで共に戦ってきた仲間たちを「守るべきもの」とし、彼らの命を救った。それは同時にアムロにとっての救いでもあった。シャアはアムロとの決闘の中で、ニュータイプが殺し合いの道具にしかならないと語ったが、アムロは自身の行動でその言葉を否定したのである。

MORE INFO!

宿敵シャアとの対峙

シャアはアムロの終生の宿敵として知られるが、一年戦争においてふたりが実際に言葉を交わした場面は少ない。アムロはサイド6でシャアに初めて出会ったが、このときにはほとんど会話することなく別れている。一方、ア・バオア・クーにおいては、お互いにニュータイプとして共感し、激しく意識をぶつけ合っている。だが、このときすでにアムロとシャアの溝はララァの死によって決定的なものとなっており、ふたりは分かり合うことなく決別するのである。

サイド6において、アムロは初対面のシャアが名乗る前に彼をシャアと認識した。シャアがアムロの素性に気付かなかったのとは対照的だった。

シャアと読火を交えたアムロは、ララァの声を聞く。だが、ニュータイプを逆の視点から見るふたりが理解し合うことはなかった。

アムロとララァの悲劇

アムロとララァはニュータイプとして出会いながら、決して共に歩めない運命を背負っていた。アムロは守るべきものもないままに戦い、ララァはシャアを守るために戦った。アムロがシャアの敵として現れた以上、ふたりは戦うほかなかったのである。だが、共感の中でララァがアムロに伝えた意識は、後の彼に多大な影響を与えた。アムロはララァの想念に縛られ、同時にそれを支えとしながら、その後の人生を歩んでいったのである。

アムロはサイド6で初めてララァと出会った。抽象的なやり取りに終始しながらも、アムロはこの少女に強く惹かれていった。

戦いの中でララァとの共感を体験したアムロは、ニュータイプの可能性を意識する。だが、それはララァの死という悲劇を伴った。

ブライト・ノア

Bright Noa

PROFILE

年齢	19歳
所属	地球連邦軍
階級	士官候補生→大尉（中尉）
出身	地球
技能	指揮

E.F.S.F.

戦いの中、務めを全うした若きリーダーの苦悩と戦いだ

ホワイトベースの指揮を執った地球連邦軍の士官候補生

一介の士官候補生に過ぎなかったブライト・ノアは、戦場の混乱によって新鋭艦ホワイトベースの艦長を務めることになり、地球連邦軍の一員として一年戦争に深く関わった。それは全くの成り行きではあったが、ブライトは強い責任感をもって、民間人ばかりで構成されたホワイトベース隊を率いて生き残るための戦いに臨んだのだ。

宇宙世紀（U.C.）0079.09、ホワイトベースに乗り込んで地球連邦軍の「V作戦」に携わったブライトは、サイド7においてジオン公国軍の急襲を受けた。その戦闘でホワイトベースは乗組員の大半を失い、艦長のパオロ・カシアスも負傷したことで、ブライトには艦をまとめる役目が託されることになる。さらに、艦を降りたパオロに代わって艦長を務めたブライトは、ジオン公国軍の追撃を振り切るべく指揮を執った。その必死の行動が膠着した戦局に楔を打ち込み、一年戦争全体にも影響を与えたのである。

当初はホワイトベース艦内の伝令を務める程度の兵員に過ぎなかった。しかし、サイド7の戦闘によって彼を取り巻く状況は激変する。

ルナツーまでホワイトベースを送り届けたのも束の間、そのまま艦の運用を半ば押し付けられる。予想していなかった事態に動揺しながらも、ブライトは任務に当たった。

CHARACTER ―― その人格

否応なくホワイトベースの舵取りを任されたブライトは、自らを律して任務に当たった。時には自分が憎まれ役になることを承知で乗組員と接し、特にアムロ・レイに対しては彼の才能に期待するがゆえに厳しい態度を取ることも多かった。

戦いを拒むアムロを殴り付けたこともあった。アムロに対しては当初から「憎んでくれていい」とも公言しており、反感は覚悟の上だったようだ。

RELATIONS

ガルマ・ザビの国葬の中継を目の当たりにし、ギレン・ザビの演説に激昂するブライト。独裁を布いて戦争を引き起こしたザビ家への憤りは強かったようだ。

ミライやリュウに助言を求めながら、手探りでホワイトベースの指揮を執り、激戦を潜り抜けていった。だが、その過程で他の乗組員と衝突することも少なくなかった。

関連ファイル

ホワイトベース	FG-01-27
アムロ・レイ	FG-02-01
ミライ・ヤシマ	FG-02-09
ホワイトベース隊	Z-03-52

FILE PREVIEW

FG-01-27 ホワイトベース

地球連邦軍がMS母艦として開発した新鋭艦で、ジオン公国軍から「木馬」と呼ばれた。多数の後継艦が建造されたことでも知られる。

今はそんな哲学など語っている暇はない！

ホワイトベースの艦長を任され、ジャブロー基地まで艦を率いることになったブライトは、慣れない指揮に苦労しながらも実戦を切り抜けていった。戦力に余裕のない地球連邦軍からは満足な支援も受けられず、孤立無援の戦いを強いられる中で、ブライトはホワイトベースの指揮を執り続けた。ブライトの采配によって、ホワイトベースは地球降下から北米、ユーラシアへと続く戦闘を潜り抜けた。その過程でシャア・アズナブルやガルマ・ザビ、ランバ・ラル、黒い三連星といったジオン公国軍の名立たる敵を退けることができたのも、ブライトの指揮によるところが大きい。しかしその一方で、素人集団であるホワイトベース隊を最前線に孤立させる地球連邦軍の対応には、不満を感じていたようだ。

その後、オデッサ作戦を経てジャブロー基地に辿り着いたブライトを待っていたのは、ホワイトベースの第13独立部隊への編入だった。ニュータイプ部隊と見なされ、囮としての役割を任されたブライトは、様々な思いを抱く乗組員をまとめて任務に当たった。その戦いはサイド6からソロモンへと移り、やがては一年戦争最後の戦場となるア・バオア・クーに至る。ホワイトベースを失う激しい戦いの中でも、ブライトは乗組員の先頭に立って陸戦の指揮を執り、最後には退艦を指示して仲間たちを生還に導いた。指揮官としての務めを全うし、ブライトは一年戦争の終戦を迎えたのである。

Ⓐホワイトベースの乗組員の中では最年長で、均整の取れた身体つきを持つ。着用する軍服はベージュ色のもので、アムロたちが着用したブルーの軍服とデザインは同じである。
Ⓑ士官候補生として個人戦闘の訓練も受けていたらしく、ランバ・ラル隊によるホワイトベース艦内への強襲やア・バオア・クーにおける陸戦では自ら銃を取って戦っている。
Ⓒ生真面目な性格の青年で、ホワイトベースを指揮する気苦労もあったのか、普段は厳しい表情を崩すことがなかった。しかし、時には皮肉や冗談を口にすることもあった。
Ⓓ士官候補生に過ぎなかったブライトにとって、艦長という役職はかなりの重荷だったことは想像に難くなく、セイラやミライに弱気を見せる場面もあったが、苦悩しながらも成長していった。

足跡 人間関係に苦慮した艦長としての苦悩

ブライトはホワイトベースを指揮して多くの戦果を挙げたが、その歩みは決して順調なものではなかった。民間人ばかりの乗組員は協調性に欠け、当初のホワイトベースは軍艦として充分な機能を発揮していなかった。それをまとめなければならないブライトの心労は深く、リュウ・ホセイやミライ・ヤシマの支えがなければ重圧に耐えられなかったに違いない。しかし、やむを得ない状況とはいえ頭ごなしに戦いを強要するブライトの態度に反発する乗組員も少なくはなく、アムロに至ってはブライトとの感情的な軋轢が一因で脱走事件を起こしてさえいる。それでも、ブライトは戦いの中で徐々に乗組員たちとの信頼関係を築き、一人前の指揮官へと成長していった。セイラ・マスに身の上を打ち明けられ、その秘密を自分の胸の内にだけ留めて変わらぬ処遇を続けたのも、ブライトの成長の表れと言えよう。

サイド7の戦闘で負傷したパオロ・カシアスを補佐する形で、ホワイトベースの指揮を執ることになる。

パオロの退艦後には本格的にホワイトベースの艦長として手腕を振るったが、リードの横槍に苛立ちを見せる場面も見られた。

セイラから、シャアと兄妹でありジオン・ダイクンの子であることを打ち明けられ、それでも戦おうとする彼女を受け入れた。

ミライには思慕の情を抱き、婚約者の存在を知って複雑な表情を浮かべた。その一方で、スレッガー・ロウに対する彼女の想いに配慮する一面も見せている。

ア・バオア・クー戦の最終局面では、白兵戦の最中に総員退艦を促すアムロの声を聞き、生き残った乗組員をまとめて要塞からの脱出に成功した。

能力 戦いの中で開花した指揮官の才能

士官候補生としての教育を受けていたブライトは、実戦の中で指揮官としての資質を開花させた。地球連邦軍においては未成熟だったMS運用を戦場で磨き、マチルダ・アジャンには「ホワイトベースを初期の性能以上に運用している」と評価されていた。

判断力に優れ、迅速な戦闘指示でホワイトベースの戦力を効果的に運用した。ある意味、地球連邦軍のMS運用に先鞭を付けた人物とも言える。

MORE INFO! ニュータイプと共にあった半生

一年戦争においてホワイトベースの艦長を務め上げたブライトは、その後も地球連邦軍に在籍して数々の戦乱に身を投じた。ブライトはその中で、アムロやカミーユ・ビダン、ジュドー・アーシタといったニュータイプと接し、その行く末を見守り続けることになる。ブライト自身にニュータイプの資質はなかったと言われているが、ニュータイプの感性とその能力ゆえの悲劇を最も間近で目の当たりにしていた。そして、時には彼らの代弁者として動き、その戦いを裏方として支えたのだった。

アムロとは「シャアの反乱」においてもロンド・ベルの一員として共に戦い、彼とシャアの因縁の決着を目撃することになった。

カミーユ・ビダン（左）
ジュドー・アーシタ（右）

カミーユはグリプス戦役においてブライトの下で戦った。ジュドーは第一次ネオ・ジオン戦争でブライトに見出されたニュータイプの少年。ブライトはふたりを大人の立場から見守り、その戦いを最後まで見届けた。

©創通・サンライズ

キラ・ヤマト

Kira Yamato

PROFILE

年齢	16歳
所属	地球連合軍
階級	少尉
出身	L4コロニー・メンデル遺伝子研究所
技能	MSの操縦

O.M.N.I

C.E.71の戦乱を終結に導いた地球軍所属のコーディネイター

仲間のためにガンダムへ乗り込んだコーディネイターの戦い

C.E.71に勃発したザフトと地球連合軍の戦いは、遺伝子調整を施されたコーディネイター（ザフト）と、遺伝子調整を施されていないナチュラル（地球軍）という2つの勢力が、その存亡を賭けて争う凄惨なものとなった。だが、コーディネイターでありながら地球軍に所属し、戦果を挙げた者がいた。その人物こそ、キラ・ヤマトである。

キラは、自ら望んで地球軍に所属したわけではなかった。C.E.71の戦乱の契機となったザフトのヘリオポリス襲撃に、偶然居合わせた学生であったのだ。だが、ヘリオポリスを襲うザフト部隊から友人たちを救うため、キラはストライクガンダムに搭乗。そのまま、地球軍の戦艦アークエンジェルの所属となったのである。キラがコーディネイターであるのは早い段階から見抜かれ、差別に苦しむこともあった。また、ザフト側には幼年学校時代の親友・アスラン・ザラが在籍していたことも、キラの心に大きな影を落としたのである。

学生仲間を助けるため、地球連合軍製MS、ストライクガンダムに搭乗。キラの優れた操縦と運動神経が敵味方の戦力と合致し、ザフトを苦しめるのだった。

ストライクの前でアスランと遭遇したキラ。アスランにザフトへの入隊を幾度も勧められるが、仲間たちやアークエンジェルのため、地球軍に籍を置いた。

CHARACTER ―― その人格

キラは物静かな、心優しい性格であった。事実、彼の学生仲間はナチュラルがほとんどであったが、それを差別するようなことはなかった。だが、戦いに巻き込まれたことで、彼の精神は不安定となっていく。

フレイ・アルスターは学校のアイドル的存在で、キラも憧れを抱いていた。ふたりはアークエンジェル内で交流を持つが……。

RELATIONS

MAIN MS

GAT-X105
ストライクガンダム

地球連合所属の大西洋連邦と、オーブの半国営企業モルゲンレーテ社が開発した試作MS。3種のストライカーパックを使い分けることで、あらゆる戦況に対応できた。

関連ファイル

フレイ・アルスター	SEED-02-02
アスラン・ザラ	SEED-02-11
ラウ・ル・クルーゼ	SEED-02-15
アンドリュー・バルトフェルド	SEED-02-16
ラクス・クライン	SEED-02-20

FILE PREVIEW

SEED-02-11 アスラン・ザラ

ザフトのクルーゼ隊に所属するMSパイロット。キラとは幼年学校時代の親友であったが、C.E.71の戦いで敵対することとなる。

PERSONAL PROFILE

キラ・ヤマト　SEED FILE 02 SHEET 01A

……僕……僕は……、殺したくなんかないのに!!

キラの乗るアークエンジェルは、アスランが所属するザフト・クルーゼ隊の追跡を受け、宇宙から地上へと逃避行を続ける。仲間を守るためとはいえ、元々軍人ではなかったキラの心は激しい戦いの中で消耗し、彼の力を利用しようと企むフレイの偽りの優しさに溺れてしまうこともあった。だが、北アフリカで合流したカガリ・ユラ・アスハの存在、そして敵でありながら軍人としての在り方を示してくれたアンドリュー・バルトフェルドとの交流が、キラを戦士として、また人間としても成長させていったのである。

アフリカ脱出後もザフトに追われたアークエンジェルは、オーブ代表首長の娘であるカガリを頼ってオーブに入港する。キラはそこで、アークエンジェル捜索の命を受けてオーブ国内に潜入していたアスランと遭遇する。すでにキラは、アスランを敵として認識するようになっており、以前のような関係には戻れないことを悟っていた。そして、戦場での再会と打倒を決意するのだった。

ふたりの決戦は、オーブを出航してすぐに開始された。戦いの中でキラは、アスランの親友であるニコル・アマルフィを死に至らしめる。この事態はアスランの逆鱗に触れ、直後の再戦では、キラの乗るストライクが、アスランの手によって撃破されてしまう。友の手で乗機を破壊されたこと――それはキラを苦しめると共に、その後の行動における大きな決断を促すことになったのである。

Ⓐ学生時代の私服姿。どこにでもいる普通の学生であり、コーディネイターであることは知られていたが、それによって偏見を持たれている様子はなかった。
Ⓑキラに用意されたパイロットスーツ。耐G性・耐火性などを備えた密閉性の高いものとなっている。
Ⓒ地球軍の制式軍服を着用したキラ。正規軍兵が着用していたものは白が基調となっていたが、キラやトール・ケーニヒら学生たちのものはグレーとなっている。
Ⓓオーブ入港時、キラはM1アストレイのOS調整に協力していたが、その素性が明らかにならないようにモルゲンレーテ社の制服を着用した。

足跡　アークエンジェル部隊の主力として

ストライクを作動させたキラは、地球軍の最重要機密に触れたとして、正規軍兵のマリュー・ラミアスに拘束される。学生仲間たちと共にアークエンジェルに連行されたキラだが、以後もストライクへの搭乗を要求された。途中、艦を降りるチャンスもあったが、仲間たちがアークエンジェルに残る決意をしたため、キラも艦に留まる。

北アフリカに降下してからは、地球軍本部があるアラスカ基地（JOSH-A）を目指し行動。レジスタンス「明けの砂漠」と連携し、北アフリカを統治するザフトのバルトフェルド隊と交戦する。キラは当初、砂漠戦に苦しむも、OSの最適化などによって対応を図り、バルトフェルド隊を撃破するに至った。その後、オーブへと入港すると、オーブの主力MSであるM1アストレイのOS調整などにも携わる。だが、オーブを出航した直後に行われた、ザフト・ザラ隊との二度に亘る激戦の末、キラはストライクを撃破されてしまう。

ユニウスセブンで保護したコーディネイター、ラクス・クラインの存在は、アークエンジェルで孤独に苛まれていたキラの癒しとなっていった。

ヘリオポリスでの遭遇以降、敵味方に分かれて戦い続けてきたキラとアスラン。オーブ内でふたりは対面し、その立場がふたりの絆を阻んでいることを認識した。

キラは当初、その優れた能力を父の仇討ちに利用しようとするフレイの優しさに溺れていく。だが、カガリとの出会いなどを経てフレイへの依存から脱却していった。

「明けの砂漠」のメンバーであったカガリは、かつてヘリオポリスで助けた少女であった。共闘する中で、キラはカガリとの絆を深めていった。

オーブ近海で行われたザラ隊との戦闘で、キラのストライクはアスランのイージスガンダムによる自爆攻撃を受け、撃破された。

能力　類稀な戦闘能力と「SEED」

キラは、コーディネイターの中でもひときわ高い身体能力と頭脳を持っていたとされる。カレッジで工学系のクラスに通っていたことも、MS操縦を迅速にマスターできたひとつの要因だったと言えるだろう。また、怒りや悲しみが一定の水準に達したとき、「SEED」と呼ばれる特殊能力が発現。その判断力や身体能力がさらに向上し、ザフトのMS部隊を一蹴することもあった。

初めてSEEDが発現した戦闘では、イザーク・ジュールが操るデュエルガンダムを圧倒、中破に追いこんだ。

MORE INFO!　トリィ

トリィは、キラが学生時代から可愛がっていた鳥型のペットロボットである。トリィを制作したのはアスランで、キラがヘリオポリスへ、アスランがプラントへと引っ越しする前、アスランから友情の証としてプレゼントされた。C.E.71、アスランと敵同士になってからも、キラはトリィを大事にしていた。

キラとアスランがフェンス越しの対面を果たした際も、トリィがアスランのところへ辿り着いたのがきっかけであった。敵同士となった状況で、唯一ふたりを繋ぐ存在であったと言っても過言ではない。

キラの左肩に乗っているのがトリィ。本物の鳥と同様、自力での飛行が可能で、「トリィ」という鳴き声を発することができた。

©創通・サンライズ

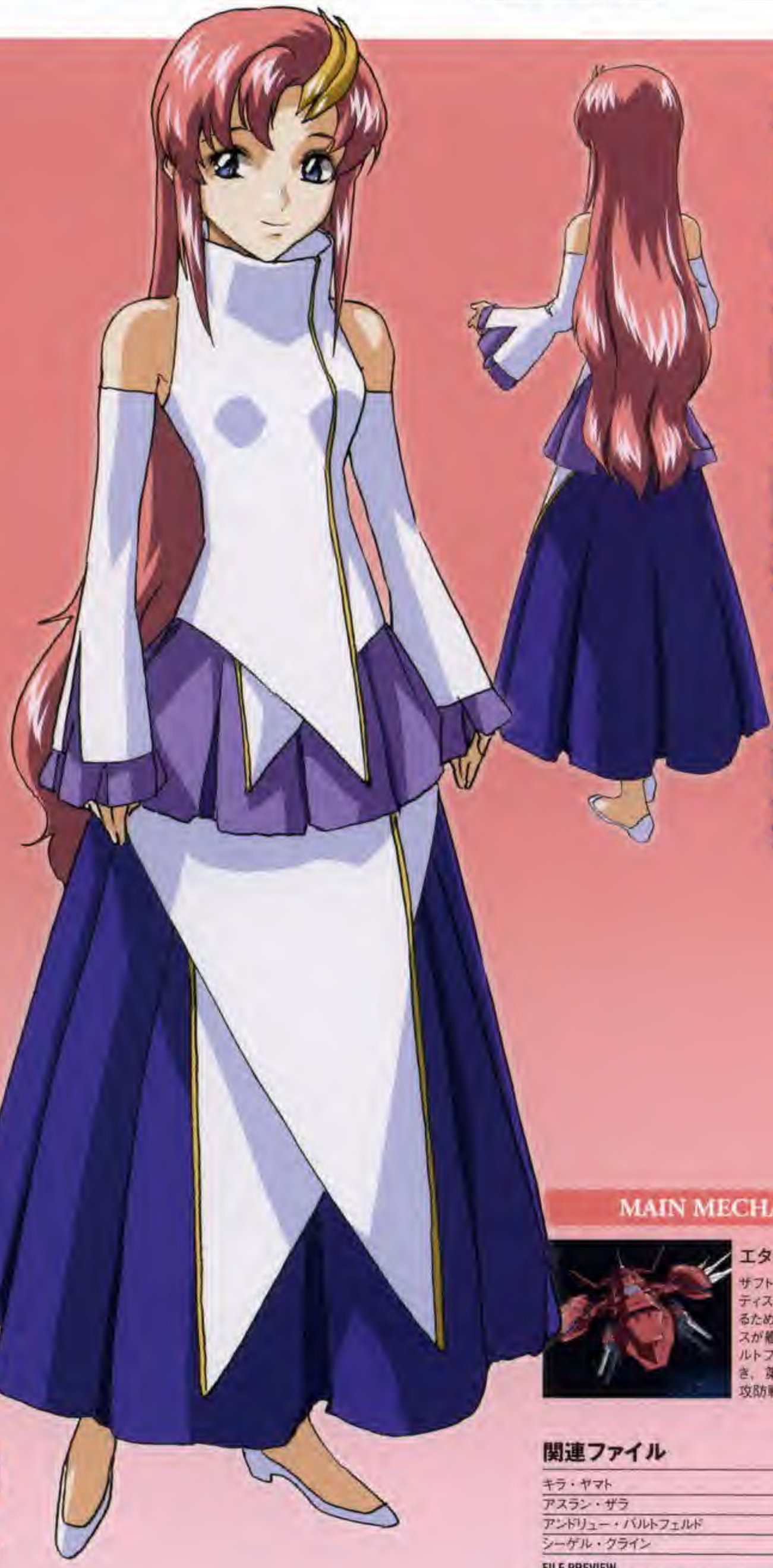
ラクス・クライン

Lacus Clyne

PROFILE

年齢	16歳
所属	クライン派
階級	——
出身	プラント
技能	政治指揮、歌唱

Z.A.F.T.



平和を愛し、守ろうと独自の行動を開始した歌姫

戦いの終結を望んだプラントの才女

ラクス・クラインは、C.E.71の戦乱において、カガリ・ユラ・アスハ、キラ・ヤマトらと独立部隊を結成し、戦闘を終結に導いた人物のひとりである。だが、プラントの前最高評議会議長を父に持ち、プラント社会の象徴とも言える存在であったラクスが、当初から戦闘終結に向けて動いたわけではなかった。戦乱の中で対峙した様々な出来事が彼女の心を揺り動かし、自らの歩むべき道を見出させたのである。

ラクスは、ザフトの設立にも関わった人物でありプラント最高評議会議長を務めるシーゲル・クラインの娘として生まれた。その血筋と歌手としての優れた才能、さらに平和を愛する姿勢は、「歌姫」としてプラント住人から絶大な支持を得ていたのである。だが、「血のバレンタイン」事件から1年、彼女はユニウスセブンでの追悼式典に向かう途中で地球連合軍との戦闘に巻き込まれ、敵勢力である戦艦アークエンジェルに保護されてしまう。

ユニウスセブンで地球軍と遭遇し、脱出ポッドで戦場から離脱したところをアークエンジェルに救われた。だが、正体が偽装し人員としてわだかまりでした。

また、アスランの双方と深かり合わせ、プラントに多数の支持者と知り合ったことがザフトと地球軍の和平に向けた人々と地球連合軍の結成に大きく貢献した。

CHARACTER ―― その人格

プラントで出生を受けた第二世代のコーディネイター。おっとりした性格であるが、一度決めたことはやり通す芯の強さを持つ。地球軍との和平推進派であった父シーゲルの影響を受けてか、C.E.71以前から平和を訴えていた。

のちにプラント最高評議会議長となるパトリック・ザラの息子で、ザフトに所属するアスラン・ザラは婚約者であった。

RELATIONS

MAIN MECHANIC

エターナル

ザフトがフリーダム／ジャスティスの両ガンダムを運用するために開発した戦艦。ラクスが艦長、アンドリュー・バルトフェルドが副艦長に就き、第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦に参加した。

関連ファイル

キラ・ヤマト	SEED-02-01
アスラン・ザラ	SEED-02-11
アンドリュー・バルトフェルド	SEED-02-16
シーゲル・クライン	SEED-02-19

FILE PREVIEW

SEED-02-19　シーゲル・クライン

プラントの最高評議会議長であり、ラクスの父。地球連合軍との全面戦争に慎重な姿勢を見せたため、国防委員長のパトリック・ザラと対立した。

あなたが信じて戦うものは何ですか？

ラクスはアークエンジェルに保護された際、キラ・ヤマトと出会う。キラはコーディネイターであり、アスラン・ザラと親友でありながら、友達を守るために地球軍に入隊し、ザフトと敵対していたのである。ラクスはキラの優しさを感じると同時に、彼の心を引き裂く戦争に「歪み」を見る。これまで歌姫という立場から平和を訴えてきたラクスであったが、より具体的に戦争を食い止める方法を考え始めるのだった。

だが戦闘は、日を追うごとに壮絶なものとなる。和平推進派であった父シーゲルも、そうした状況の中で発言力を失っていき、プラント最高評議会議長の座も地球軍への攻撃を強硬に主張するパトリック・ザラに譲ることとなる。ラクスはこの状況を変えるため、支持者と共に行動を開始。キラにフリーダムガンダムを託したほか、ラジオを通じてプラント市民に戦争終結を訴えるなど、パトリックやプラント最高評議会との決別を宣言する。だが、パトリック側の反発も強くなり、シーゲルは特殊部隊によって暗殺されてしまったのだった。

父を失った悲しみに包まれながらも、ラクスはザフトの新鋭艦エターナルを強奪して出航。地球軍を離脱したアークエンジェル、オーブ軍のクサナギと遭遇し、ザフトと地球軍の戦いに介入する。規模は小さいものの、キラやのちに合流したアスランの力と高性能MS群、そして何よりも、戦いを止めたいと願うラクスらの想いが、戦争を終結に導いたのである。

足跡 クライン派のリーダーとしての行動

シーゲルの娘というポジションから、ラクスは昔から政治的な役割を持たされていた。そのため、ユニウスセブンで行われる予定であった追悼慰霊団代表に選ばれている。そこで地球軍と遭遇し、アークエンジェルの捕虜となるが、キラの独断により、身柄はザフトへと返された。その後、プラントに戻ったラクスは、極秘裏に支持者を集めて独自に行動を開始。まず、オーブ付近の戦いで重傷を負ったキラをプラントに保護する。キラの体調が回復すると、ザフトが開発した新型MS、フリーダムガンダムを託す。この行動により、プラントからは反逆者として追われる身となったが、バルトフェルドやマーチン・ダコスタの協力を得て、エターナルでプラントを離脱。アークエンジェルやクサナギと独立部隊を結成し、ザフトと地球軍の全面戦争に介入する。ラクス本人も、エターナルの艦長として最前線で指揮を続けた。

能力 導き出されたSEEDの能力

軍人ではなかったラクスだが、経験豊富なバルトフェルドらのサポートと彼女自身のセンスもあって、エターナルでは冷静な判断を下していた。また、第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦では、アスランやキラ、カガリと同じく「SEED」が発現するなど、壮絶な戦いの中で生まれた怒りや悲しみが、ラクスに秘められていた力を解放した。

エターナルのブリッジで「SEED」を発現させるラクス。戦場という未知の場所が、彼女が持つ大きな力を解放に導いたのだった。

Ⓐラクスが追悼慰霊団代表としてユニウスセブンを訪れた際の衣装で、ステージ用と見られる。その形状は独創性に溢れている。

Ⓑバラード系の楽曲を得意としており、「静かな夜に」などのヒット曲を持つ。愛らしさと育ちの良さを感じさせる歌姫として人気を集めていた。

Ⓒキラをプラントの自宅で保護していたときの私服。ステージ衣装と似たようなデザインであるが、よりリラックスできるものとなっている。

Ⓓエターナルの指揮官として活動したときの戦闘服姿。立襟と鋭角な肩のラインが特徴的なジャケットと、和服のようなインナーの組み合わせである。

敵対勢力であるはずの地球軍で行動し、大きな苦悩を抱えているキラと戦場で出会ったことは、ラクスに大きな衝撃を与えた。父の死と共に、彼女を独自の行動に駆り立てた要因のひとつと言えるだろう。

マルキオ導師から、オーブ付近の戦闘で重傷を負ったキラを預かり、介抱を続けた。キラが戦う意欲を見せたため、その力としてフリーダムを託した。

アスランとは、父親同士が険悪になったこともあって婚約を破棄。その後、アスランを「何のために戦っているのか」と厳しく問い詰めた。

独立部隊を結成し、キラと行動を共にするようになると、彼への気持ちは徐々に深まっていった。戦闘終結後も、オーブでキラと共に時を過ごす決断をした。

MORE INFO! ハロ／オカピ

ラクスが常に携えていたハロは、アスランが制作したペットロボットである。エターナルにも持ち込まれたピンクのほか、ブルーやイエローなどのカラーバリエーションが存在する。また、ラクスの邸宅にはオカピと呼ばれる四足歩行型のお手伝いロボットもあり、こちらもアスランの制作であった。

「テヤンデイ！」「ミトメタクナイ！」など、多少の言語も話すハロと、お茶などを運ぶことができるオカピ。ラクスの邸宅には、多数のハロとオカピが放たれていた。

ラクスはハロを大変気に入っており、大切にしていた。そのキュートな存在は、父を亡くし、大きな喪失感に苛まれた彼女の癒しにもなっていた。

©創通・サンライズ

西暦ガイド

地球連邦

Organization of AD

西暦の組織・勢力

「歪み」を内包した地球統一政体

地球連邦は国際連合から発展した地球の統一政体である。西暦2312年時の参加国は328ヶ国に上る。国連から地球連邦への改名は、ソレスタルビーイング（CB）崩壊から3年後の西暦2311年。参加国の軍隊を解体／統合した地球連邦平和維持軍（連邦軍）の誕生は西暦2312年のことだった。

地球連邦は事実上、軌道エレベーターを含む地球と周辺宙域全体を統治する政体である。ただし、国連からの改名時に強大な権力を得たのではない。

CB壊滅直後の国連では、三大勢力のユニオン、AEU、人類革新連盟が協力関係を強化し、各地で国連軍が活動していた。それまで世界のほぼすべてを統治していた諸勢力が、統合に向かっていたのが西暦2308年から2311年頃の国連であり、この時点で世界規模の権限と実力を有する超々大国＝地球連邦は形成されつつあったのだ。こうして見ると、対CB戦を通して協力関係を築いた三大勢力が、国連の名の下に発展的に統合、再編された地球統一政体が、地球連邦だとわかる。

しかし、ここで疑問が浮かんでくる。なぜ三大勢力は、CB崩壊後も協力関係を継続し、地球連邦誕生へと動いたのだろうか？　第二次世界大戦後、枢軸国を倒した連合国が対立し東西冷戦へと移行したのと同じく、三大勢力がCB出現以前のような「ゼロサムゲーム」を再開しなかった理由は？　事実、三大勢力に疑似太陽炉搭載MSを供与し、CBの「イオリア計画」と計画の中核である量子型演算処理システム「ヴェーダ」を奪取、新世界の主になろうとしたアレハンドロ・コーナー国連大使はCB殲滅作戦「FALLEN ANGELS」で戦死しており、地球連邦のリーダーシップを執る人間はいなかったのだ。

確かに地球連邦の編制を主導する「人間」はいなかった。だが、アレハンドロを操ってヴェーダを掌握し、自らが望む形でイオリア計画を進めようとした者はいた。それがイノベイターを自称したイノベイドたちである。

ヴェーダの生体端末として生み出されたイノベイド数名が歴史の舞台裏から国連と地球連邦を操作し、人類の統一を図った。もっとも世界統一政体の誕生と人類の統一はイオリア計画に含まれており、それ自体に問題があるとは言えない。しかし彼らに操られた地球連邦は、政府直轄の独立治安維持部隊アロウズと連邦保安局を用いて、非連邦参加国や反対勢力を弾圧していく。少数勢力の排除、粛清による人類の統一である。こうした弾圧行為は正当な対テロ作戦として喧伝され、市井の人々が実態を知るのはアロウズ解体後のことになった。

（リョーコ・ウエダ　AD2364）

関連ファイル

リボンズ・アルマーク	00-02-18
地球連邦の誕生	00-03-09
西暦2312年の世界	00-03-38
独立治安維持部隊アロウズ	00-03-41

FILE PREVIEW

00-03-09　地球連邦の誕生

CBとの戦いで、協力関係を築いた三大勢力を中心に、国際連合から発展。西暦2311年に地球連邦が誕生した。

Illustration by TAKUYA IO

イオリア計画と地球連邦

地球統一政体＝地球連邦の誕生はイオリア計画に含まれていた。これはCBの武力介入、世界の統合、人類の意思統一という計画の流れの中で想定されており、宇宙開発の促進、人類のイノベイター化、地球外生命体との接触「来るべき対話」へと繋がっている。実際、地球連邦の成立前後から宇宙開発は加速し、3基の軌道エレベーターの完成、太陽光発電装置の設置、スペースコロニーの建設も進んだ。その一方で、地球連邦政府は中東諸国や反連邦組織への弾圧を行い、暴走の末に「ブレイクピラー」事件を引き起こしたアロウズに権限を集約させていく。一般市民が知らぬ間に、地球連邦は治安維持を名目とした独裁体制になっていたのだ。こうした地球連邦政府の方針は、リボンズの敗北とアロウズの実態露見まで続いていく。

旧三大勢力を中心に世界各国を糾合した国連と地球連邦は宇宙開発を強化した。その一方で、軌道エレベーターと高・低軌道リング、人工衛星群を利用した監視網も整備された。

初代地球連邦大統領。地球統一のため強いリーダーシップを振るっているように見えたが、実際にはリボンズの傀儡。ヴェーダの情報統制に頼り、真実を一般市民から隠していた。

MORE INFO!

連邦軍の前身、国連軍

連邦軍の事実上の前身と言えるのが、CB殲滅のために結成された史上最大規模の国連軍である。疑似太陽炉搭載MSの入手後、三大勢力間に締結された軍事同盟により誕生し、国連の管理下に置かれた。国連軍は、CB殲滅作戦「FALLEN ANGELS」を成功させたが、同時に疑似太陽炉搭載MSとそのパイロットのほとんどを失った。しかし、ジンクス・シリーズの増産と軍の再編を行い、地球統一の尖兵としての活動を続けた。この中で国連軍は、反国連勢力の駆逐を担い、地球連邦誕生の下地を作ったのだった。

軍事同盟締結を発表した三大勢力の代表者たち。国連軍誕生の裏にはアレハンドロ・コーナーやリボンズの暗躍があった。

疑似太陽炉搭載MSを装備した国連軍は、CBに匹敵する戦闘能力を発揮。ついにCBの母艦プトレマイオスとガンダムを撃破した。

GNX-603T ジンクス

アレハンドロ・コーナーから30機が提供された疑似太陽炉搭載MSで、ガンダムに迫る戦闘能力を持つ。後に増産され、多数が国連軍に配備された。連邦軍の主力MSジンクスIIIの原型機である。

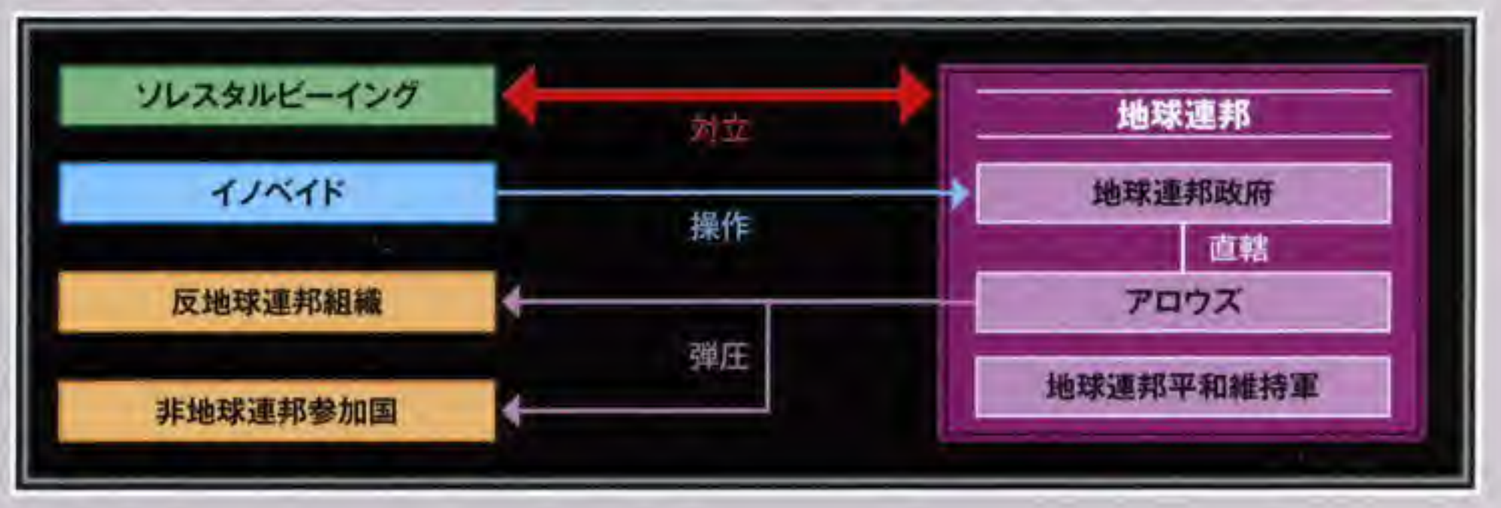
地球連邦の成立と発足直後の体制

西暦2311年、国連から移行、改名する形で地球連邦は誕生した。首長は連邦大統領で、連邦議会は連邦参加国から選ばれた議員で構成されている。西暦2312年の連邦軍誕生の時点で328ヶ国が参加しており、史上最大の版図を持っていたが、ほとんどは旧三大勢力の加盟国、またはその強い影響下にある国（AEUとの関係が深いアフリカ諸国など）だったと考えられる。

地球連邦政府の中心や連邦議会はユニオン領に置かれた（当初はアメリカの国連議会場を使用）。なお、地球連邦の人口は世界の約9割に達した。

地球連邦と内部／周辺組織の関係

地球連邦はほとんどの国を統治しており、非参加国は中東諸国など旧三大勢力に加盟していなかった中小国（軌道エレベーター開発に参加しなかった国）にほぼ限られていたようである。地球連邦政府は非参加国や反連邦勢力への強硬姿勢を示しており、アロウズによる弾圧や虐殺、擬似太陽炉を用いた通信遮断を容認した。こうした地球連邦政府の方針は、リボンズらイノベイドの操作に因るところが大きく、事実の隠蔽や情報統制はヴェーダが担っていた。



地球連邦平和維持軍

西暦2312年、連邦参加国の軍隊を解体、一元化することで誕生した軍事組織が地球連邦平和維持軍である（事実上の前身はCB殲滅のために組織された国連軍）。人員は4,000万人規模に達し、疑似太陽炉搭載MSを多数配備する。地球連邦の国軍に位置付けられるが、アロウズの結成後、存在感が薄れ、「ブレイクピラー」事件後には指揮権をアロウズに集約された。

旧三大勢力の軍隊に参加していた実戦経験者も多い。アロウズ結成後は事実上その下部組織として扱われたうえ、優秀な人材も引き抜かれてしまった。

GNX-609T ジンクスIII

疑似太陽炉搭載MSジンクスの発展機で、西暦2312年時の連邦軍主力MS。小型化されたクラビカルアンテナが特徴。アロウズ機と異なり青系で塗装された。

セルゲイ・スミルノフ

「ロシアの荒熊」と呼ばれる猛者で、元は人革連の軍人。非道な行いを嫌っており、アロウズのやり方を疑問視していた。

バング・ハーキュリー

アロウズの蛮行を知らしめるため、アフリカタワーの低軌道ステーションを占拠した連邦軍人。セルゲイの友人。

地球連邦の変容

人類の意思統一のためアロウズの非人道行為を看過し、ヴェーダによる情報操作でそれを隠蔽していた地球連邦政府だったが、命運が尽きる時が来た。外宇宙航行艦ソレスタルビーイング号の戦いで、後ろ盾にして黒幕であるリボンズを失ったうえ、アロウズの蛮行が明るみに出たのである。結果、政権はアロウズと共に倒れたのだった。その後、新大統領が選出され、かつての反連邦勢力も参加する新たな地球連邦が活動を開始した。

アロウズスキャンダル

アロウズによる弾圧や虐殺行為が公にならなかったのは、リボンズが地球連邦政府に協力（実際には「操作」）し、ヴェーダを用いた情報統制が行われていたためである。しかし、CBがヴェーダを奪還し、リボンズを撃破したことで地球連邦政府とアロウズの蛮行が露見。政権は崩壊を余儀なくされた。

地球連邦政府とアロウズの対テロ作戦の実態は無差別殺戮だった。中東再編計画に反対したスイール王国やアザディスタン王国は、国を焼き払われている。

新政権の誕生

地球連邦の新政権は、アロウズの解体と連邦軍の再編、非連邦参加国への援助と連邦への参加推進、全世界の送電システム網の確立などを掲げ、真の地球連邦樹立に向けて努力すると表明した。他にも旧政権時代に与えられた被害の回復、対話路線による敵対勢力との関係改善、軍縮といった方針が採られた。

新政権や連邦議会には、旧非参加国だけでなく、かつての反連邦組織カタロンのメンバーも参画。出現し始めた純粋種イノベイターへの対応も模索された。

©創通・サンライズ・毎日放送

MS運用理論

モビルスーツ誕生

History of MS Development of U.C.
宇宙世紀のMS開発史

ミノフスキー粒子散布環境下対応兵器の開発

サイド3を拠点とするジオン公国が初めて開発・実用化した人型機動兵器が「モビルスーツ（以下MS）」である。MSとは「Mobile S.U.I.T（Mobile Space Utility Instruments Tactical＝戦術汎用宇宙機器）」を意味する。

「スーツ」の名から、人間が着用するパワードスーツのようなものが想像されるが、実際のMSは全高20m近い巨大人型兵器であり、パイロットは胴体などに設置されたコクピットに乗り込み、操縦する。移動方式は、重力下で脚部による歩行、宇宙空間では各種ロケット・エンジンを用いる。武装は人間用の銃器や刀剣類に近い形状の巨大兵装を、五本指マニピュレーターで使用する。こうした特徴から、MSが「巨大な歩兵」であることが理解できる。

しかし、なぜ人型という形状が選ばれたのかという疑問が生じる。直立する以上、大きくならざるを得ない前面投影面積は被弾率の増大に直結し、多数の関節と五本指マニピュレーター、空間移動用の推進器は生産性と整備性を悪化させる。こうした点から人型であるメリットはないように思える。

それでもMSの威力は絶大で、宇宙では宇宙艦艇を撃破し、地上でも主力戦車を易々と破壊した。MSは有史以来最強の機動兵器だったのだ。

MSの最強性を担保し、その誕生を促したものこそミノフスキー粒子だった。トレノフ・Y・ミノフスキー博士が仮定し、U.C.0069に存在が実証されたミノフスキー粒子は様々な特性を持っている。中でも、短波から超長波に至る電磁波の大半を減衰させる「特殊電磁波効果」と強い透過性は、精密電子機器の誤作動を引き起こすことでも知られる。

これに着目したのが、軍事力による地球連邦の打倒を構想していたジオン公国である。地球連邦の30分の1の国力しか持たないというジオン公国は、軍事力でも劣勢だった。そこでジオン公国軍は、高濃度のミノフスキー粒子を広域散布し、地球連邦軍を無力化する構想に辿り着いた。地球連邦軍の兵器は高度に電子化されていたため、ミノフスキー粒子散布環境下では極端に性能が低下するのだ。しかし、これはジオン公国軍も同様で、そのままでは自軍の兵器も使い物にならなくなることは確実であった。

そこでジオン公国軍は、ミノフスキー粒子散布環境下で十全な性能を発揮する新兵器の開発に着手した。当初こそ有視界戦闘が強要されること以外、実態がわかっていなかったミノフスキー粒子散布環境下対応兵器だが、研究と開発の中で人型機動兵器MSへと昇華していった。

（トーマ・S・ウォルツ　U.C.0099）

関連ファイル

MS-05B ザクI	FG-01-07
一年戦争の開戦と南極条約締結	FG-03-03
ジオン公国軍のMS開発	FG-03-16
MS	FG-03-17
一週間戦争とルウム戦役	FG-03-42

FILE PREVIEW

FG-03-42　一週間戦争とルウム戦役

U.C.0079.01.03、地球連邦に宣戦を布告したジオン公国軍は、01.15、サイド5「ルウム」での戦闘で、MSを投入し地球連邦軍に大打撃を与えた。

Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

実証された人型兵器の優位性

MSが人型兵器とされた背景には有視界戦闘を強いるミノフスキー粒子散布環境の特性がある。機体同士が衝突しかねない至近距離での戦闘では、巨大な銃火器や刀剣を使用可能な人型兵器が優れるのだ。また、多種多様な兵装を使いこなす腕部=五本指マニピュレーターは高度な作業性能を兼ね備えており、スペース・コロニーのハッチ開閉に代表される各種作業に用いることもできた。デッドウェイトに過ぎないと思われる脚部も、宇宙／地上（スペース・コロニー内）両用兵器であるMSにとって、重力下用移動機構になっている。また腕部と脚部は、燃料消費なしに機体の姿勢を制御するAMBAC（Active Mass Balance Auto Control=能動的質量移動による自動姿勢制御）システムとしても機能しており、高度なMSの戦闘能力を支えていたのである。

ZI-XA3（MS-01）に搭載されていたマジックハンドは、五本指マニピュレーターへと発展。パワーと精密さを兼ね備えるMSの腕部ユニットは、戦闘や各種作業で優れた性能を発揮した。

脚部ユニットは宇宙ではAMBACシステムとして、重力下では歩行用として使用。脚部が招いた高重心と安定性の低さは運動性の向上に逆用され、MSに主力戦車以上の機動性を与えた。

MORE INFO!

制式MSを巡るコンペティション

次期主力汎用戦術兵器のコンペティションでは存在感を示せなかったZIMMAD社だが、MSの開発が始まると得意とするエンジン技術を投入し、オリジナルのMSを開発した。そのひとつが、大推力の熱核ロケット・エンジン「木星」を搭載するEMS-04 ヅダである。主力MS選定コンペティションに参加したヅダは、ZEONIC社のYMS-05 ザクIと競合、優秀な成績を残した（ザクIとの模擬戦に勝利したとする説もある）。しかしザクIの1.8倍に上るコストがネックになったうえ、公的飛行試験中に空中分解事故を起こし、制式化は見送られた。

「広帯域推進技術」を導入し、重元素を戦闘時用の推進剤とする「木星」エンジンを搭載。EMS-10では「土星」エンジンを採用した。

EMS-04 ヅダ

一年戦争中、EMS-10 ヅダはプロパガンダのために喧伝された。だが、本機はZIMMAD社が競争試作に提出したMSであるEMS-04と基本的に同じ機体だったと言われる（下はEMS-10 ヅダ）。

ミノフスキー粒子散布環境下対応兵器の開発

MS開発への道

U.C.0069.08.15、サイド3に興ったジオン公国は、地球連邦からの独立戦争を志向していた。しかし、圧倒的国力を誇る地球連邦を軍事力で破るには、軍備が不足していた。そこでジオン公国軍は、特殊電磁波効果で既存の兵器体系と戦術を無効化するミノフスキー粒子に着目する。U.C.0070.03に特殊電磁波効果の公開確証実験が成功すると、翌年のU.C.0071にはミノフスキー粒子散布環境下に対応する兵器の開発に着手したのだった。

大艦巨砲主義の申し子であり、空間戦の花形だった宇宙艦艇は高度な電子化が災いし、ミノフスキー粒子散布環境下では性能を発揮できなかった。

ミノフスキー粒子散布環境下対応兵器への要求仕様（推測含む）

- ミノフスキー粒子の散布環境で十全な性能を発揮する。
- 有視界戦闘（白兵戦）を前提とする。
- 宇宙戦闘機を上回る機動性と攻撃力を持つ。
- 宇宙／地上（スペース・コロニー内）の双方に対応する。

次期主力汎用戦術兵器の選定

次期主力汎用戦術兵器と仮称されたミノフスキー粒子散布環境下対応兵器の開発は、ジオン公国系の重工業メーカーであるZEONIC（ジオニック）社、ZIMMAD（ツィマット）社、MIP（エムイーペー）社の3社が競合する形で行われた。この時点では実戦的な性能は求められておらず、最適解がわかっていないミノフスキー粒子散布環境下対応兵器の雛形を決定することが主な目的だった。

U.C.0073の最終選考に残ったのはZEONIC社のZI-XA3とMIP社のMIP-X1である。ZI-XA3はMSの、MIP-X1はモビルアーマーの雛形となり、それぞれに発展していった。

ZEONIC社

社内プロジェクト「S.U.I.T計画」で開発したZI-XA3を提出。開発時は「汎用宇宙機器」と称する作業宇宙服に偽装されていた。ZI-XA3は人間に近いフォルムを持つ機体で、当初こそ実用性に疑問が持たれたが、ミノフスキー粒子散布環境下への対応能力と優れた汎用性が評価され勝利。MSの呼称とMS-01の型式番号を与えられた。

ZI-XA3を一目見たギレン・ザビは冷笑を浮かべたと伝えられる。だが、人型のフォルムはミノフスキー粒子環境下での白兵戦能力や作業性に優れるうえ、姿勢制御も容易だった。

MIP社

MIP社が提案したものが、空間重機と宇宙戦闘機の特性を併せ持つMIP-X1である。宇宙空間ではロケット・エンジンを、スペース・コロニー内ではホバークラフトを移動に用いる常識的な設計だった。宇宙での機動性や生産性こそ優れていたが、それ以外の項目で劣っており、ZI-XA3に敗北。新主力兵器の雛形にはならなかった。

ZI-XA3に敗れたMIP-X1だったが、その機動性を高く評価していたジオン公国軍はMIP-X1を基に新たな機動兵器の開発を指示する。それこそが、後のモビルアーマーであった。

実験機MS-01から実戦用MSザクIへの発展

「クラブマン」と通称されたMS-01（ZI-XA3）は、あくまでもMSの雛形であり実戦に耐えられなかった。その後、開発は加速度的に進み、推定で1年以内にミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉搭載のMS-04 プロトタイプ・ザクが完成、U.C.0074.02には史上初の実戦用MS、MS-05 ザクIの試作1号機がロールアウトした。

MS-04 プロトタイプ・ザク（MS-04は アーリー・ザクとも呼ばれる）を経て開発されたザクI。情報操作と地球連邦軍の反応調査を兼ねて、作業風景が公開されていた。

型式番号／名称	動力	前身機からの主な変更点	補記
MS-01（ZI-XA3）	不明（核分裂反応炉、電池類、外部動力？）	—	全高約14m。 180度旋回の所要時間3秒。
MS-02	不明（核分裂反応炉、電池類？）	冷却機構の改善 燃料消費の改善 機動性向上	MS-01の改修機。 開発スタッフ拡充。 開発拠点を公国軍工廠に移転。
MS-03（改修前）	不明（核分裂反応炉、電池類？）	人型フォルムの強調 装甲強化 機動性低下（機動性向上を目指すも失敗） 耐G性能の向上	生産数4（用途別に仕様が異なる）。 重装甲化によりMS-02と比べ4割の機動性低下。
MS-03（改修後）	不明（核分裂反応炉、電池類？）	脱出コクピットの廃止 ボディのモノコック化	改修は軽量化目的。 コスト、整備性、操縦性を除けば実用レベル。
MS-04 プロトタイプ・ザク	ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉 （ZAS社のZAS-X7型）	兵装交換機能による多用途化 機動性向上	100mm口径のZXM-1試製マシンガンを装備。 機動性はMS-03の2倍。 生産性などの問題から制式化を見送り。
MS-05 ザクI	ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉 （初期にZAS社のZAS-MI8B型、 後にM&Y公社、ZEONIC社共同開発のMYFG-M2ES型）	生産性の向上 マニピュレーターの性能向上 兵装の充実	史上初の実戦用MS。 ザク・マシンガン、ザク・バズーカ、ヒート・ホークなどの兵装が用意される。

©創通・サンライズ

MS開発に伴い実用化された技術

MSを実用化するため、ジオン公国の民間企業や公社は様々なテクノロジーを開発した。中でも下図で解説している技術はプロトタイプ・ザクまでにほぼ完成されていたもので、ジオン公国系MSの基礎技術になっている。その技術は、動力系や推進・駆動システム、外部認識装置、基本動作用コンピューター／プログラム、装甲材質、機体構造などあらゆる分野に及ぶもので、MS全体が新技術で構成されていたと言っても過言ではない。ただし、すべてがミノフスキー物理学を導入した完全新規の技術ではなく、旧来のテクノロジーを発展させたものも少なくなかった。

ジオン公国系MSの外見的特徴であるモノアイは、旧来のカメラ・システムを基に開発された。ミノフスキー粒子散布環境でも、高度な外部視認能力を発揮する。

■ 実用化された各種新技術

モノアイ

単眼式の外見を持つMS用外部認識装置。光学・赤外線カメラ、レーザーセンサー／通信装置などを備える複合センサー・システムである。

流体内パルス・システム

大出力、高レスポンスの駆動機構。反応炉で発生したエネルギーをパルス状の圧力に変換し、関節駆動用ロータリーシリンダーに伝達する。

超硬スチール合金

装甲材または装甲の基材として用いられるスチール系合金。生産性に優れるほか、出現当時はMS用として充分な耐弾性を発揮した。

AMC

アクティブ・ミッション・コントロールの略。MSの基本動作を担うシステムで、パイロットの操作や状況に合わせた挙動をMSに行わせる。

モノコック構造

装甲外殻で機体を支える構造。単殻構造、外骨格式とも呼ばれ、機器は装甲外殻の内部に搭載される。軽量性と生産性に優れる。

ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉

ミノフスキー物理学によって成り立つ小型かつ高出力の反応炉。炉内はIフィールドを展開しており、直接電気を発生させる。

熱核ロケット・エンジン

反応炉心の熱を用いて推進剤を噴射するスラスターで、MSの主推進器。一般的なロケット・エンジンと比べて小型、高推力である。

AMBACシステム

MSの四肢を動かした反動で、機体の姿勢を制御するシステム。燃料を消費することなく姿勢制御を可能とする点が特徴である。

Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

史上初の実戦用MS、ザクIの量産と発展

絶対的な性能に劣りながらもコストパフォーマンスや安定性が評価されてか、EMS-04 ヅダとの競争試作に勝利したザクIは、U.C.0075.07に量産が決定、翌月には実戦型がロールアウトしている。当初、生産されたザクIは初期先行試作量産型と呼ばれるMS-05A ザクIA型で、27機が製造された（ヅダとの競争試作に参加したYMS-05がザクIA型仕様に改装されたのか、27機に含まれるのかは不明）。これでジオン公国軍のMS開発は一段落したが、改修と発展は続いていった。

完成したザクIA型は、ミノフスキー粒子散布環境下において特に驚異的な性能を発揮した。新兵装も開発されており、その性能は地球連邦軍の宇宙艦艇を撃沈可能なレベルに達していた。

■ 教導機動大隊での運用

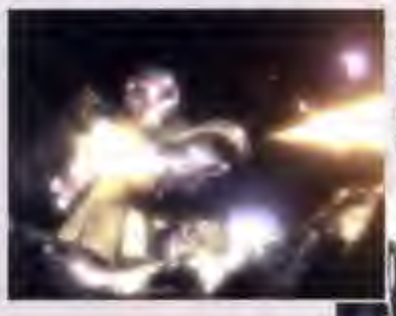
すべてのザクIA型はU.C.0075.11に編制された教導機動大隊に配備された。教導機動大隊ではパイロットの練成、未だ不明だったMSの戦術や運用方法の研究などが行われた。U.C.0076.05に開始された教導機動大隊の演習では、ザクIA型の問題点が浮上している。

キシリア・ザビの提言で編制された教導機動大隊には、"黒い三連星"やランバ・ラル、シャア・アズナブルらが参加し、ザクIA型による演習を実施した。

U.C.0077.07、サイド6への軍事介入において教導機動大隊が初の実戦参加。この際、用いられたのもザクIA型だった。参加将兵としてガデムが知られる。

■ ザクIB型への発展

ザクIA型の運用データは、コクピットや装甲材質に問題があることを示していた。これを改善したタイプがMS-05B ザクIB型で、793機が生産された。ザクIB型は広く配備されたものの、ジオン公国軍上層部は性能に不満を持っており、一年戦争開戦以前に第一線を退いた。



ザクIの決定版と言えるザクIB型だが、短期間で後方任務や補給部隊に回された。一年戦争後期に戦況が逼迫してくると、前線配備になった機体もあった。

ザクIB型の中には、防塵・防水処理や対人兵装を施した陸戦仕様も存在する。局地戦用MSと並行して開発された、陸戦用デバイスを装備した機体である。

Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

ザクIの問題とザクIIの開発

ミノフスキー粒子散布環境下対応兵器としての基本性能を満たしていたザクIだが、ジオン公国軍上層部は稼働時間、汎用性や出力などに不満を抱いていた。そこでZEONIC社は、ザクIの基本スタイルを受け継ぎながらも、各種の問題を解決した新主力MSの開発に着手する。それこそがジオン公国軍のワークホースとして一年戦争を戦い抜いた名機、MS-06 ザクIIである。開発は順調に進み、U.C.0077.08には試作機と同型のMS-06A ザクII A型がロールアウトした。

ザクIIの外見的な特徴である動力パイプは、動力系の独立による整備性改善、出力と機動性の向上、放熱機能の改良による稼働時間延長などに役立っている。

ザクIIは拡張性・汎用性・戦闘能力などあらゆる面でザクIを超えていた。拡張性を活かして多種多様なバリエーションが開発されたことでも知られる。

ザクIIの発展

「想定されうるあらゆる環境に対応する、MSの持つべき汎用性の拡大」という過大な汎用性を要求されたザクIIは、84機生産されたA型の後も発展を続け、核兵器運用仕様のMS-06C ザクIIC型が開発された。先行量産がU.C.0077.09、量産開始はU.C.0078.01のことで、生産数は236機に達した。その後、核兵器運用能力を排除したザクIIの決定版、MS-06F ザクIIF型が生産されることになった。

ザクIIC型はいわゆる「核バズーカ」も運用できるタイプであり、一年戦争の緒戦では対艦攻撃や対スペース・コロニー攻撃において絶大な戦果を挙げた。

右肩のシールドと左肩部のスパイク・アーマーを装備したのもザクIIC型からとなる。地球連邦軍のMS投入を警戒したキシリア・ザビの提言で、装備されたという。

MS-06F ザクIIF型

U.C.0078.12に生産が開始されたザクIIのスタンダード。ザクIIC型から核兵器運用能力を除去し、胴体に複合装甲を採用した。生産数は3,000機以上あるいは3,246機。

MORE INFO!

MS用支援兵器の開発

ジオン公国軍ではMSと並行して、それをサポートする兵器の開発も進められた。その代表がU.C.0075.07に1番艦が就役したMS運用宇宙艦艇、ムサイ級軽巡洋艦である。ジオン公国軍は、空間戦におけるMSを艦載機のように捉えており、その移動式運用拠点となる宇宙艦艇を建造していた。大気圏内用としては、宇宙艦艇の代わりとなる巨大航空機のガウ級攻撃空母や、地上艦のギャロップ級陸戦艇を構想し、開発を進めた。

大気圏内用制空戦闘機ドップ。広いキャノピーは外部視認性を高めるもので、ミノフスキー粒子散布環境下での運用を想定したことがわかる。

ムサイ

MS用格納庫とMS用カタパルトを備える、史上初のMS運用艦。ミノフスキー粒子散布環境下を想定し、視認性の高い艦橋を持つ。

マゼラ・アタック

陸戦においてMSの支援に当たる主力戦車。やはり外部視認性を重視している。砲塔が分離し、垂直離着陸機として機能する。

©創通・サンライズ

機動戦士ガンダムSEED

TIMELINE

C.E.70~C.E.71

「血のバレンタイン」事件とヘリオポリス襲撃

コーディネイターと、ナチュラルというふたつの勢力間で軋轢が生じたコズミック・イラ（C.E.）。C.E.71、その軋轢は世界を二分する壮絶な戦いへと発展する。

C.E.-16~C.E.69

C.E.-16 4月1日… 人類初のコーディネイター、ジョージ・グレンが誕生。
C.E.9…… 国連主導の下、C.E.（コズミック・イラ）が制定される。
C.E.15…… ジョージ・グレン、自身がコーディネイターであることを告白。自然保護団体「ブルーコスモス」がコーディネイター技術に反対。
C.E.16…… 「国際遺伝子資源開発会議」が開催。人間の遺伝子操作が禁止される。
C.E.30…… 第一次コーディネイターブームが起こる。
C.E.38…… 新型コロニー「プラント」の建造が始まる。
C.E.41…… 第二世代コーディネイターが誕生。
C.E.45… コーディネイターの人口が1,000万人を突破（推定）。
C.E.50… シーゲル・クラインとパトリック・ザラ、プラント内の自治権と貿易自主権の獲得を訴え、ザフトの前身である政治結社「黄道同盟」を結成する。
C.E.53… ジョージ・グレン、暗殺される。
C.E.55… 地球上での遺伝子改変が禁止される。この頃、ナチュラルの反コーディネイター感情は最悪に。キラ・ヤマト、ラクス・クライン、アスラン・ザラ誕生。
C.E.65… 「黄道同盟」、名称をザフト（自由条約黄道同盟）に変更。
C.E.69… プラントと地球理事国との交渉は不調に終わる。

C.E.70 2月14日~

「血のバレンタイン」事件以降の混乱

宇宙・プラント群を拠点とするコーディネイター勢力と、地球を拠点とするナチュラル勢力の対立を決定的にしたのは、C.E.70のバレンタインデーに起きた、地球連合軍によるプラントへの核攻撃である。「血のバレンタイン」と呼ばれるこの事件により、農業プラント・ユニウスセブンが崩壊し、約24万人のコーディネイターが死亡する。これに激怒したプラント最高評議会は、核の使用を不可能とするニュートロンジャマーを対抗措置として地球全土に投下。地球は、極度のエネルギー不足に陥る。さらにプラントの軍組織ザフトは、大量のMSを地球に送り込み、地球軍側を圧倒。アフリカを中心にその勢力を拡大させた。

「血のバレンタイン」事件は、C.E.成立後の世界において初めて行われた核攻撃事件であり、プラント側と地球側の亀裂は修復できないものとなった。

ニュートロンジャマーとMSは、物量で劣るプラント側が地球連合に対抗すべく生み出したもので、ザフトの勢力拡大に絶大な効果を挙げた。

C.E.71 1月25日

ザフトのクルーゼ隊、ヘリオポリスを襲撃する

C.E.71に入ると、ラウ・ル・クルーゼ率いるザフトのクルーゼ隊が、地球軍がMSを開発しているとの情報をキャッチ。機体が開発されているという中立国オーブの資源衛星・ヘリオポリスを急襲する。襲撃の結果、地球軍が開発した5機の試作機を発見、そのうち4機を奪取するが、ストライクガンダムの奪取に失敗する。クルーゼ隊のメンバーで、ジンのパイロットであるミゲル・アイマンは、ストライクの奪取を目指して再びヘリオポリスに潜入。だが、ヘリオポリス在住の学生、キラ・ヤマトの操縦技術と、ストライク本体の性能により撃破される。さらに、地球軍がガンダムと共に開発していた新造艦アークエンジェルの出航を許したため、クルーゼ隊はその後を追うことになる。

クルーゼ隊は、ザフトの中でも優秀な兵士が集うエリート部隊で、アスラン・ザラやイザーク・ジュールなど、士官学校を優秀な成績で卒業した者が参加していた。旗艦はヴェサリウス。

ヘリオポリス襲撃によって、地球軍（大西洋連邦）が開発したイージスガンダム、デュエルガンダム、ブリッツガンダム、バスターガンダムを奪取。以後クルーゼ隊の主力機とした。

地球軍は予期せぬザフトの襲撃に浮足立ち、簡単にガンダム4機を奪取されてしまう。だが、友人を助けるためにストライクに乗り込んだキラが機体を操縦し、クルーゼ隊を撤退に追い込んだ。

地球軍は、マリュー・ラミアスやナタル・バジルールら正規兵を中心にアークエンジェルを起動。戦闘によって崩壊したヘリオポリスから多数の避難民を乗せて出航した。

C.E.70	
2月14日	「血のバレンタイン」事件、勃発。
3月8日	ザフト、赤道封鎖作戦「オペレーション・ウロボロス」を可決。
4月1日	ザフト、地球全域にニュートロンジャマーを投下。
C.E.71	
1月25日	ザフトのクルーゼ隊、ヘリオポリスを襲撃する。 キラ、ストライクガンダムに搭乗。 アークエンジェル、ヘリオポリスを離脱。

MORE INFO!

ニュートロンジャマー

プラントが開発した、核動力停止装置。中性子の運動を阻害する効果があり、核分裂によるエネルギーの発生を阻止できた。また、装置周辺では電波障害を引き起こすため、レーダー通信が困難となる。プラント側はこれを地球へ大量投下し、核兵器や原子力を無力化した。直後から地球側には大きな被害が発生し、総人口の1割にあたる10億人が餓死・凍死した。

地球に投下されたニュートロンジャマー。先端に取り付けたドリルで地中深くまで掘り進むことができ、その除去が不可能となるシステムであった。

NEXT PAGE

C.E.71 1月27日

アルテミス要塞、クルーゼ隊の奇襲を受けて壊滅

ヘリオポリスを脱出したアークエンジェルは、クルーゼ隊の追跡を回避しながら、地球連合ユーラシア連邦の軍事要塞・アルテミスに入港する。補給を受けようとしていたアークエンジェルだが、ストライクの技術奪取を狙うアルテミス上層部によってストライクが奪われ、クルーたちも拘束されてしまう。しかし、クルーゼ隊の急襲によって生じた混乱を利用してキラはストライクを奪還。アークエンジェルと共になんとかアルテミスを脱出する。

ユーラシア連邦は、地球連合内での地位を向上させるため、大西洋連邦が先んじて開発したMS・ストライクの技術を欲した。

C.E.71 2月2日~3日

アークエンジェル、ユニウスセブンへ

アルテミスを追われるように脱出したアークエンジェルは、補給の必要性に迫られていた。そのため、「血のバレンタイン」事件で破壊されたユニウスセブンの残骸の中から物資を調達する。だが、ザフトがユニウスセブンの追悼式典を行う目的で現地に派遣していた偵察用MSと遭遇。キラのストライクはやむなく交戦し、機体を撃破する。直後、ストライクは宇宙空間を漂う脱出用ポッドを発見し、アークエンジェルへと回収。そのポッドから現れたのは、プラントの追悼慰霊団代表としてユニウスセブンを訪れていたラクス・クラインであった。プラント最高評議会議長の娘であり、プラントで絶大な人気を誇る歌姫であったラクスを、アークエンジェルは保護することとなった。

崩壊の傷跡を深く残すユニウスセブンからの物資調達に、クルーたちも拒否反応を示していた。だが、アークエンジェルの物資は底を突いており、背に腹は代えられない状況であった。

アークエンジェルがユニウスセブンに辿り着いたのと同じ頃、ザフトは追悼式典の準備に入っていた。そのためザフトのジン長距離強行偵察複座型がストライクと鉢合わせし、交戦することになった。

ストライクが回収した脱出ポッドの中から現れたラクス。彼女の存在は、コーディネイターでありながら地球軍に参加し、様々な偏見と戦っていたキラにとって癒しとなるものであった。

C.E.71 2月7日

アークエンジェル、第8艦隊先遣隊と接触

孤立無援で航行を続けていたアークエンジェルだったが、地球軍第8艦隊の先遣隊が救援に駆け付けた。合流を図ろうとした艦だが、後を追ってきたクルーゼ隊の急襲により、旗艦モントゴメリは撃破されてしまう。さらにアークエンジェルも危機を迎えるが、ラクスを人質に立ててヴェサリウスに撤退を促し、難を逃れた。

モントゴメリには、キラの学生仲間であるフレイ・アルスターの父ジョージ・アルスターが乗艦していたが、クルーゼ隊の攻撃によって帰らぬ人となってしまった。

C.E.71 2月8日

キラ、ラクスを脱出させる

民間人であるラクスを人質としたことには、キラをはじめアークエンジェル内でも疑問の声が出ていた。キラはこれ以上ラクスを艦に置いておくのは忍びないと、ザフトへの返還を決意。キラのかつての幼馴染であるアスランにその身柄を託した。その際、アスランからはザフトへの入隊を勧められるが、キラは仲間たちを守るため、拒絶した。

キラはラクス返還に賛同したサイ・アーガイル、ミリアリア・ハウの協力を得て、ラクスをザフトへと返した。クルーゼ隊はストライクを攻撃しようとするが、ラクスが制する。

C.E.71 2月11日~13日

クルーゼ隊、アークエンジェル撃破に失敗

アークエンジェルを追うクルーゼ隊は、第8艦隊と合流する前に艦の撃破を狙っていた。アスランやイザークら4名は、連携攻撃によってアークエンジェルを包囲、撃破寸前まで追い込むも、「SEED」を発現し、覚醒状態となったキラのストライクに阻まれ、撤退を余儀なくされた。

「SEED」が発現したキラとの交戦で、イザークは乗機デュエルが中破しただけでなく、顔面に大きなダメージを負ってしまう。

アークエンジェル、地球へ降下

第8艦隊との合流に成功したアークエンジェル。キラたち学生兵は除隊を許可されるも、全員が自らの意志で艦に残る。艦は地球軍本部のあるアラスカに針路を採るが、ここでもクルーゼ隊の襲撃に遭う。第8艦隊はこの攻撃で全滅するが、アークエンジェルは大気圏内に突入する。

アークエンジェルは地球に降下できたものの、ヘリオポリスからの避難民を乗せた脱出艇はザフトに沈められてしまった。

C.E.71 1月27日 アークエンジェル、アルテミス要塞に入港。

クルーゼ隊の奇襲により、アルテミス要塞壊滅。

MORE INFO!

大西洋連邦

大西洋連邦は、地球連合に所属する勢力のひとつ。北米やヨーロッパの国々が参加した連合国家で、地球連合を牽引する存在である。だが、連合の利益も多く得ていることから、ユーラシア連邦など他の勢力から疎まれることもあった。

大西洋連邦は他の勢力に先駆けてMSを開発するため、中立の技術立国・オーブの半国営企業モルゲンレーテ社と秘密裏に連携していた。

2月2日 ユニウスセブンの追悼慰霊団、地球軍との交戦後に遭難。

2月3日 アークエンジェル、ユニウスセブン宙域に到達。ラクスの乗る救命ポッドを発見、回収。

2月7日 アークエンジェル、第8艦隊先遣隊と接触。

第8艦隊先遣隊、クルーゼ隊の攻撃で全滅。

2月8日 キラ、クルーゼ隊のアスランに接触。ラクスを引き渡す。

MORE INFO!

「SEED」の発現

孤立無援だったアークエンジェルの主力・ストライクのパイロットとして、キラはそのコーディネイター能力をフルに活かしていた。さらに、地球低軌道上で行われたクルーゼ隊との戦いでは、大きな怒りが契機となって「SEED」が発現し、通常以上の能力が発揮できた。

「SEED」が発現すると、種が割れたようなビジョンがキラの頭の中に現れ、通常よりも優れた戦況判断が可能となった。

2月11日 アークエンジェル、地球軍第8艦隊と合流。

2月13日 キラとその学生仲間5名、地球軍に正式入隊。

アークエンジェル、地球降下。

©創通・サンライズ

毎号お買い忘れのない、便利な定期購読がオススメ！

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」

定期購読のお知らせ

定期購読には、2つの方法があります。

書店を通じて

お近くの書店レジカウンターで、定期購入または予約購入をお申し込みください。発売日、書店にはお客様の雑誌が届いています。ご注文いただいた書店にてお買い求めください。

小社より直送で

送料無料　一括払い不要　途中解約可能

下記のいずれかの方法で

1.フリーダイヤル

0120-300-851　営業時間 9:00～21:00（年中無休）

2.専用申込書　次ページの専用申込書をご利用ください。

3.インターネット（パソコン・携帯）

http://deagostini.jp/gpf/

創刊号～第55号のご購読で 読者全員プレゼント!!

ガンダムオリジナル イラストコレクション

第一弾

新規 描き下ろしイラスト A3サイズ

オリジナルフレーム付き

機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
MOBILE SUIT GUNDAM Char's Counterattack

Illustration by IWAO TERAOKA
Color by NAGISA ABE
Special effect by HIROFUMI YAGI (ASAHI PRODUCTION)
Back Ground by ATELIER MUSA

※サイズ：イラストボード 297×420mm
※デザイン・スペックなどは変更になる場合がございます。
※海外には発送できません。

ここでしか手に入らない、完全描き下ろしイラストコレクション！第二弾、第三弾も乞うご期待!!

第二弾：第56号～第105号までのご購読でプレゼント　第三弾：第106号～第155号までのご購読でプレゼント

【応募方法】

第3号についている応募はがきに、創刊号～第55号の応募券を貼ってご応募ください。

※詳しい応募方法は、専用応募はがき添付ページをご覧ください。（第一弾応募締切：2013年1月末日 必着）

※**小社直送による定期購読をいただくお客様へ**　直送定期購読をご利用のお客様は、**応募はがきは不要**です。
プレゼントは本誌第55号・105号・155号送付時に自動的にお届けいたします。
定期購読をご利用のお客様より応募はがきにてご応募いただいた場合は重複応募となります。プレゼントは1つのみのお届けになりますので、予めご了承ください。

※全員プレゼントキャンペーンは本誌第155号にて終了いたしますが、本シリーズは全180号です。

応募券は裏表紙の裏についています→

本誌 次号予告 ページ 右下隅

© 創通・サンライズ　© 創通・サンライズ・毎日放送

お買い忘れなく安心！ 発売日をメールでお知らせします！ ご登録ください

発売日 お知らせメール♪

PC用 http://deagostini.jp/oshirase/gpf/

携帯用 http://deagostini.jp/gpf/ 携帯用QRコード➡

COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第3号　ラインナップ

MECHANIC FILE メカニックファイル

クシャトリヤ

ガンダムデュナメス

スタークジェガン

リック・ドムII

レウルーラ／ガランシェール

PERSONAL PROFILE パーソナルプロファイル

マリーダ・クルス

ロックオン・ストラトス（ニール・ディランディ）

スベロア・ジンネマン

フェルト・グレイス

ジャマイカン・ダニンガン

WORLD GUIDE ワールドガイド

私設武装組織ソレスタルビーイング

〈インダストリアル7〉襲撃

GLOSSARY ガンダム用語辞典

『機動戦士ガンダム』用語集

マリーダ・クルス

私設武装組織ソレスタルビーイング

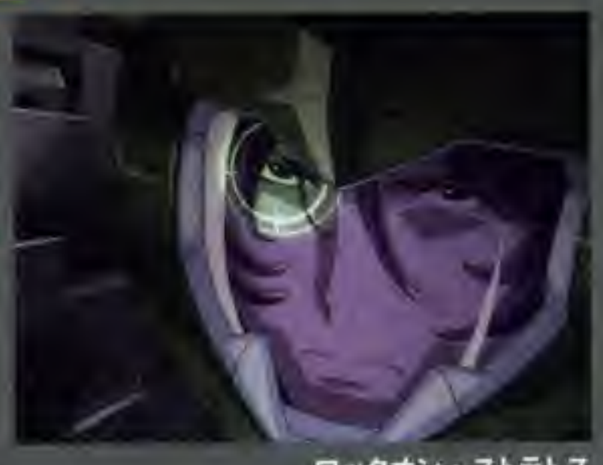
第3号

定価590円（税込）

10月11日（火）発売

※地域によって発売日が異なる場合があります

スタークジェガン


ロックオン・ストラトス

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバインダーの利用方法

1 週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』を各ページごとに、ていねいに切り離します。

2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。

3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。

4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる！

オリジナルデザイン「表紙用ポケットファイル」発売決定!!

※2012年1月発売開始予定。詳しくは今後の本誌内、HPにてご案内いたします。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読用のお知らせ用紙をご覧下さい。

THE OFFICIAL

GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

2

今週のMS❶
RX-78-2 GUNDAM

今週のMS❷
GAT-X105 STRIKE GUNDAM

MECHANICS FILE

ガンダム／ストライクガンダム／ホワイトベース／ゼク・アイン／FAZZ／アルケーガンダム

PERSONAL PROFILE

アムロ・レイ／ブライト・ノア／キラ・ヤマト／ラクス・クライン

WORLD GUIDE

地球連邦／モビルスーツ誕生

C.E.TIMELINE

「血のバレンタイン」事件とヘリオポリス襲撃

アムロ・レイ

モビルスーツ誕生

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・毎日放送

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル NO.2
発行所：〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
書店専用注文センター TEL:03-5212-5311（月～金9:30～17:30土日祝日を除く） FAX:03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト:http://dbooks.net/

4910205631014
00562

雑誌 20563-10/18 通巻２号
Ⓛ-2017/3/1 2011年10月18日発行

発行所—デアゴスティーニ 定価 590 円
本体 562 円